

佐倉市男女平等参画社会に関する 市民意識調査報告書

令和5年4月
佐倉市

目次

I 調査の概要	4
1 調査の目的	5
2 調査の内容	5
3 調査方法	5
4 回収結果	5
5 報告書の見方	5
6 回答者の属性	6
II 調査結果	8
第1章 男女平等意識について	9
問1 性別役割分業への賛否	9
問2 男女平等感	10
第2章 家庭生活について	21
問3 結婚状況	21
問3-1 就労状況	21
問4 家庭の役割分担	22
問5 男性が家事や育児、介護をすることについてのイメージ	24
問6 家事や育児、介護などの役割を男性も担うには	26
第3章 子育て・教育について	27
問7 子どもを育てる場合、どのようにしたいか	27
問8 家庭・学校や地域社会において、どんな教育や習慣の見直しが重要か	28
第4章 職業（就業）について	30
問9 職業は何か	30
問10 職場で、性別により仕事の内容や待遇面で差別があるか	31
問10-1 具体的な内容	32
問11 仕事、家庭生活、地域・個人の生活のうち優先したいものの理想と現状	33
問12 育児休業や介護休業を取得したことがあるか	34
問12-1 取得しなかった理由	35
問13 育児休業・介護休業の今後の利用について	37
問14 女性の仕事と、結婚・出産等の関係について	38
問15 男女が共に仕事や家庭、地域活動、趣味・娯楽などを両立していくためには	40

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、男女平等・共同参画に関する市民の意識を把握し、今後の関係施策を推進するための基礎調査資料を得ることを目的とする。

2 調査の内容

- (1) 男女平等意識について
- (2) 家庭生活について
- (3) 子育て・教育について
- (4) 職業（就業）について
- (5) 地域活動について
- (6) 人権について
- (7) 男女平等参画施策について

3 調査方法

- (1) 調査地域 佐倉市全域
- (2) 調査対象者 市内在住の満18歳以上70歳未満の市民
- (3) 標本数 3,000人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳による無作為（男女別 1:1）
- (5) 調査方法 郵送配布 — 郵送回収、インターネット回答
- (6) 調査期間 令和4年9月1日（木）から 10月3日（月）まで

4 回収結果

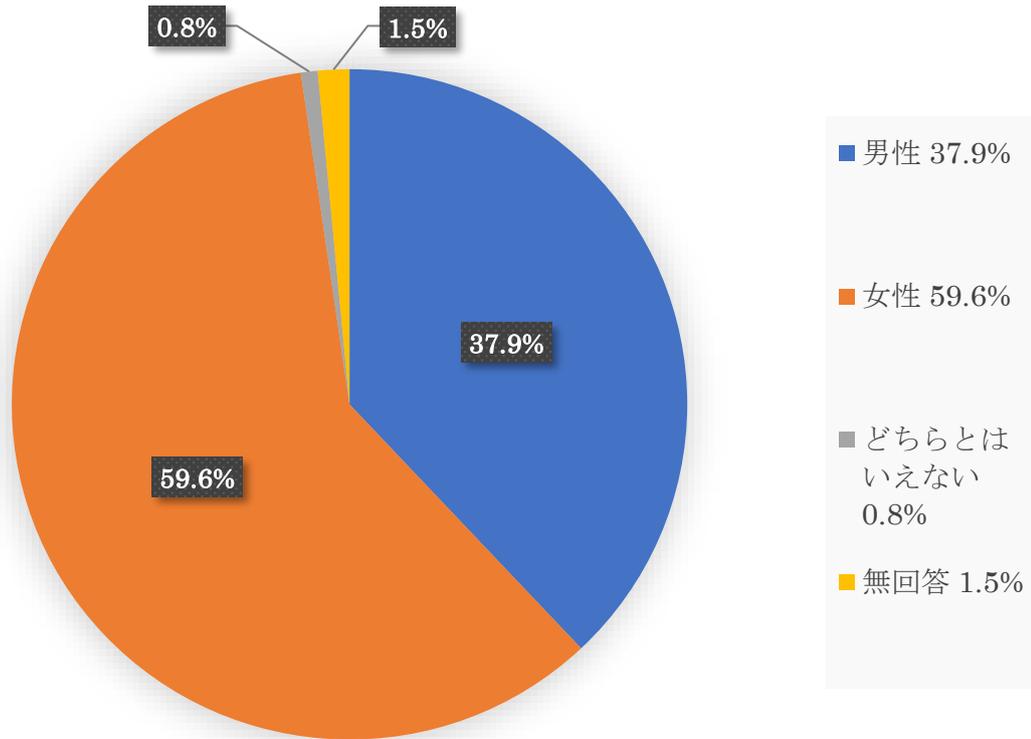
有効回収数 (率)	906 (30.2%)	
	女性	540
	男性	344
	どちらともいえない	8
	無回答	14

5 報告書の見方

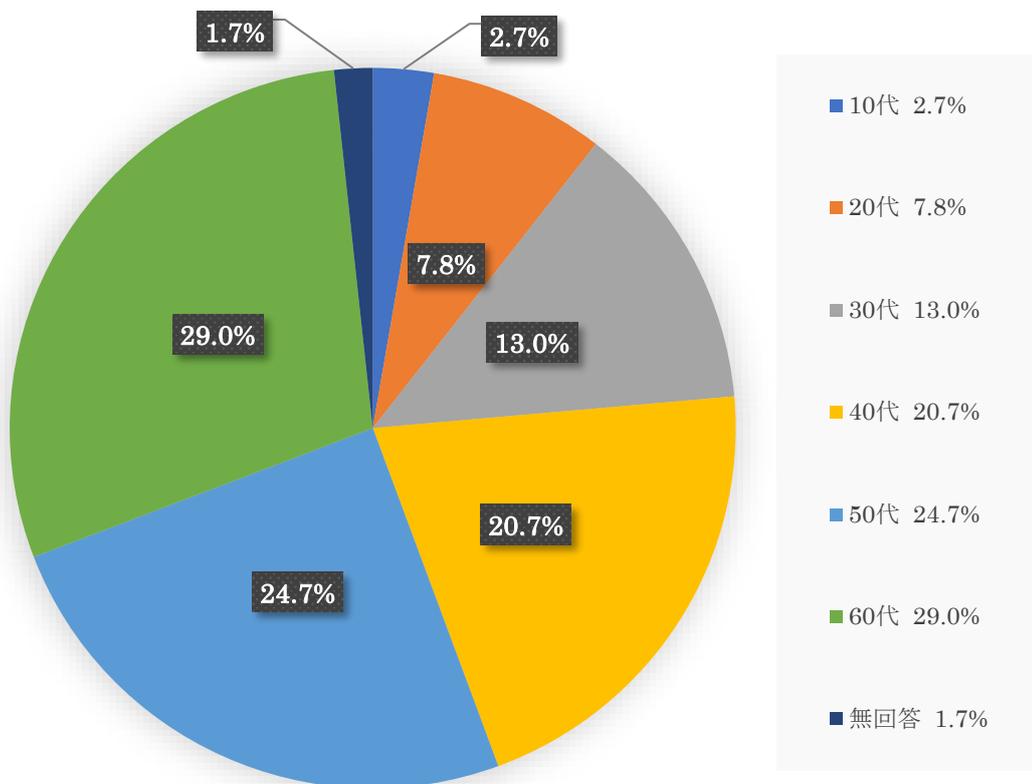
- (1) 回答は各質問の回答者数を基数（n）とした百分率（%）で表示してある。
- (2) 百分率は、小数第二位を四捨五入してあるため、合計が100%にならない場合がある。
- (3) 全体には属性無回答を含むため、男女別等の属性別計の数と一致しない。
- (4) 表の都合上、設問や回答の選択肢及び数値を省略している場合がある。
- (5) 前回調査は平成29年度に実施。

6 回答者の属性

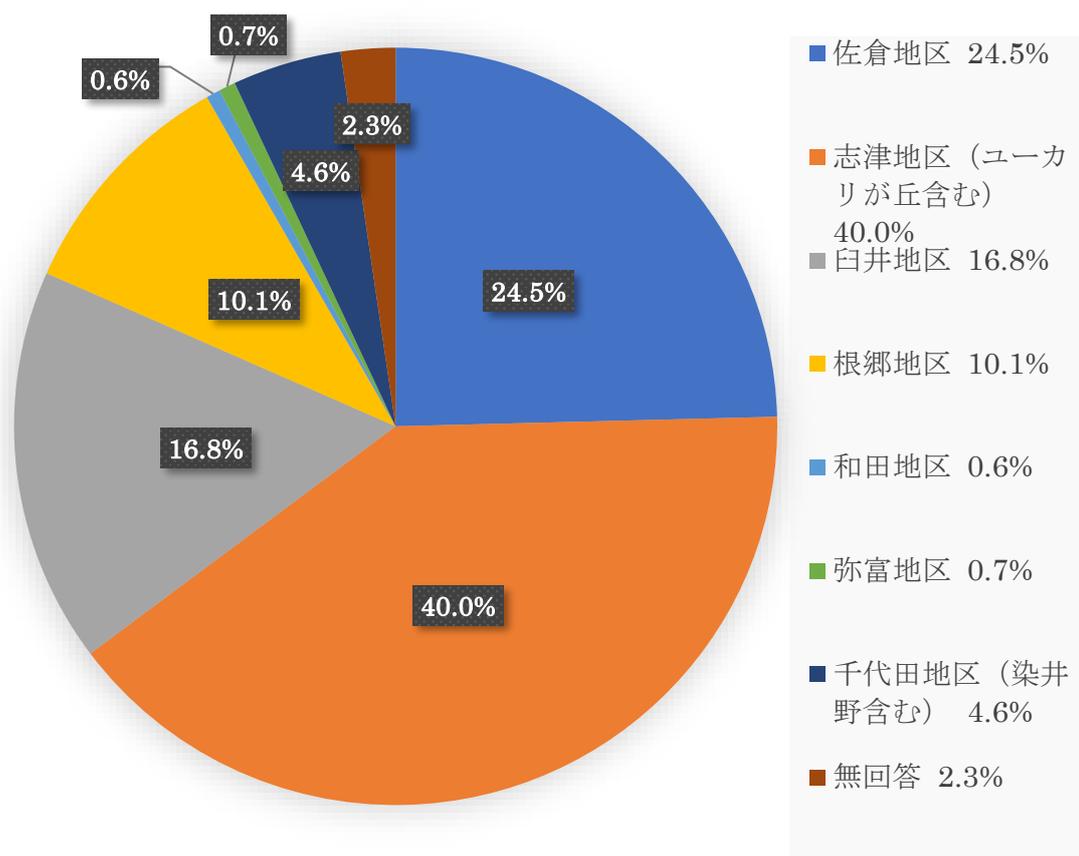
(1) 性別



(2) 年齢



(3) 居住地区



(4) いっしょにお住まいの方

	[人]
ひとり暮らし	71
パートナー (事実婚含む)	609
子ども	418
親 (パートナーの親含む)	205
兄弟姉妹	60
祖父母	16
孫	8
その他の親族	5
その他	12

II 調查結果

1 男女平等意識について

問1 あなたは「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどのように思いますか。
(〇は1つ)

[%]

	全体 (906)	女性 (524)	男性 (340)	どちらとも いえない (7)
同感する	3.2	1.9	5.2	0.0
どちらとも いえない	30.6	29.1	34.1	14.0
同感しない	64.9	68.8	58.2	71.4
わからない	1.1	0.0	2.3	14.0

「同感しない」が64.9%と、「同感する」(3.2%)を大きく上回った。前回調査の「同感しない」は50.4%であった。

[性・年代別]

上段：女性 [%]

下段：男性 [%]

	全体	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
同感する	1.9	0.0	0.0	2.9	3.6	0.7	2.1
	5.2	0.0	3.3	0.0	8.3	9.2	3.6
どちらとも いえない	29.1	23.5	15.8	22.1	35.7	32.4	29.0
	34.1	25.0	36.7	39.5	37.5	30.3	32.4
同感しない	68.8	76.5	84.2	75.0	60.7	66.9	69.0
	58.2	75.0	58.7	58.1	52.8	56.6	62.2
わからない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2.3	0.0	3.3	2.3	1.4	3.9	1.8

女性の場合、全ての年代で「同感しない」が60%を超え、男性の場合は半数を超えている。

前回調査と比較しても、男女全ての年代で「同感しない」の数値が伸びる結果となった。(女性52.3%→68.8%、男性48.0%→58.2%)

問2 あなたは、次の（ア）～（ケ）について、男女の地位は平等になっていると思いますか。それぞれの項目ごとに、あてはまるものを選んでください。

[%]

(n=906)	男性優遇 (計)		平等である	女性優遇 (計)		わからない	無回答	男性優遇 (計)	女性優遇 (計)
	男性の方が 非常に優遇されている	どちらかといえば 男性が優遇されている		女性が優遇されている どちらかといえば	女性の方が 非常に優遇されている				
(ア) 家庭生活の中で	10.6	40.0	35.3	6.6	1.1	5.6	0.0	50.6	7.7
(イ) 地域社会の中で	9.1	45.6	30.2	9.8	1.4	7.7	1.4	54.7	11.2
(ウ) 学校教育の場で	3.6	20.8	52.9	4.3	0.7	17.0	0.8	24.4	5.0
(エ) 職場の中で	16.3	39.0	27.5	6.6	1.5	7.8	1.2	55.3	8.1
(オ) 法律や制度の中で	11.7	38.9	28.9	6.7	1.1	11.5	1.2	50.6	7.8
(カ) 政治の場で	39.7	39.6	11.5	1.0	0.3	6.8	1.0	79.3	1.3
(キ) 社会通念・習慣・ しきたりなど	29.4	51.0	11.4	2.1	0.2	5.6	0.3	80.4	2.3
(ク) 人生を決める 選択肢や自由さ	17.0	45.4	27.9	3.1	0.6	5.5	0.6	62.4	3.7
(ケ) 社会全体でみた場合	14.3	59.6	14.7	2.6	0.6	7.6	0.6	73.9	3.2

前回の調査同様、全ての項目で「男性優遇（計）」が、「女性優遇（計）」を上回り、さらに3～10ポイント上昇する結果となった。

「平等である」に注目すると、「学校教育の場で」の項目が52.9%と半数を超えているものの、前回の61.9%よりは減少している。

[性別]

上段：女性 [%]

下段：男性 [%]

	男性優遇 (計)		平等である	女性優遇 (計)		わからない	無回答	男性優遇 (計)	女性優遇 (計)
	男性の方が 非常に優遇されている	どちらかといえば 男性が優遇されている		女性が優遇されている	どちらかといえば 女性が優遇されている				
(女性:540、男性:344)									
(ア) 家庭生活の中で	13.9 4.7	45.2 32.3	30.9 43.3	3.5 11.0	0.6 1.7	5.2 6.4	0.7 0.6	59.1 37.0	4.1 12.7
(イ) 地域社会の中で	12.8 7.8	52.8 41.6	19.6 34.0	3.9 9.3	0.6 0.9	9.4 5.8	0.9 0.6	65.6 49.4	4.5 10.2
(ウ) 学校教育の場で	4.1 2.6	23.0 17.2	48.9 59.6	4.1 4.7	0.4 0.9	18.9 14.5	0.7 0.6	27.1 19.8	4.5 5.6
(エ) 職場の中で	19.4 11.0	40.7 36.0	25.4 31.1	3.7 11.6	0.4 2.9	9.1 6.4	1.3 0.9	60.1 47.0	4.1 14.5
(オ) 法律や制度の中で	15.2 6.1	43.3 30.8	21.7 41.3	4.4 10.2	0.4 2.0	13.5 9.0	1.5 0.6	58.5 36.9	4.8 12.2
(カ) 政治の場で	44.1 32.6	38.9 41.6	6.7 18.6	0.6 1.7	0.0 0.6	8.7 4.4	1.1 0.6	83.0 74.2	0.6 2.3
(キ) 社会通念・習慣・ しきたりなど	33.7 22.4	50.2 53.5	8.3 15.1	0.7 4.4	0.0 0.3	6.7 4.4	0.4 0.0	83.9 75.9	0.7 4.7
(ク) 人生を決める 選択肢や自由さ	20.7 11.3	45.9 44.2	24.3 33.7	2.6 4.1	0.2 0.9	5.6 5.8	0.7 0.0	66.6 55.5	2.8 5.0
(ケ) 社会全体でみた場合	17.8 9.0	62.2 55.8	10.0 21.8	1.1 5.2	0.2 0.6	8.1 7.3	0.6 0.3	80.0 64.8	1.3 5.8

性別でも、「学校教育の場で」は「平等である」が女性 48.9%、男性 59.6%と高くなっている。

前回調査と比較すると、男性が「政治の場」について男性優遇と考える割合が、59.4%→74.2%と大きく増加している。また、どの項目においても、女性の方が男性優遇と回答する割合は高く、男女の地位の平等意識に差が生じていることがわかる結果となった。

[性・年代別]
 (ア) 家庭生活の中で

[%]

(n=884)	男性優遇 (計)		平等 である	女性優遇 (計)		わから ない	無回 答	男性優 遇 (計)	女性優 遇 (計)
	男性の 方が 非常 に優 遇さ れて いる	ど ち ら か と い え ば 男 性 が 優 遇 さ れ て い る		女 性 が 優 遇 さ れ て い る	ど ち ら か と い え ば 女 性 が 優 遇 さ れ て い る				
全体	10.6	40.0	35.3	6.6	1.1	5.6	0.8	50.6	7.8
女性全体 (540)	13.9	45.2	30.9	3.5	0.6	5.2	0.7	59.1	4.1
10歳代 (17)	5.9	41.2	35.3	11.8	0.0	0.0	5.9	47.1	11.8
20歳代 (39)	10.3	48.7	33.3	2.6	0.0	5.1	0.0	59.0	2.6
30歳代 (73)	12.3	35.6	39.7	2.7	1.4	6.8	1.4	47.9	4.1
40歳代 (114)	18.4	42.1	21.9	7.0	1.8	8.8	0.0	60.5	8.8
50歳代 (147)	17.0	45.6	28.6	2.7	0.0	5.4	0.7	62.6	2.7
60歳代 (148)	10.1	50.7	35.1	1.4	0.0	2.0	0.7	60.8	1.4
男性全体 (344)	4.7	32.3	43.3	11.0	1.7	6.4	0.6	37.0	12.7
10歳代 (8)	0.0	25.0	37.5	25.0	0.0	12.5	0.0	25.0	25.0
20歳代 (30)	6.7	16.7	33.3	26.7	3.3	10.0	3.3	23.4	30.0
30歳代 (43)	2.3	20.9	39.5	20.9	0.0	16.3	0.0	23.2	20.9
40歳代 (73)	4.1	26.0	53.4	9.6	2.7	4.1	0.0	30.1	12.3
50歳代 (76)	6.6	26.3	50.0	6.6	1.3	7.9	1.3	32.9	7.9
60歳代 (114)	4.4	49.1	36.8	6.1	1.8	1.8	0.0	53.5	7.9

男性優遇（計）の割合に、男女で大きな差があった。また、男性の10～30歳代は女性優遇（計）の割合が他の世代や女性全体と比べると高くなっていることがわかる。

(イ) 地域社会の中で

[%]

(n=884)	男性優遇 (計)		平等 である	女性優遇 (計)		わからない	無 回 答	男性優遇 (計)	女性優遇 (計)
	男性の方が 非常に優遇 されている	どちらかといえ ば男性が優遇 されている		女性の方が 非常に優遇 されている	どちらかといえ ば女性が優遇 されている				
全体	9.1	45.6	30.2	9.8	1.4	7.7	1.4	54.7	11.2
女性全体 (540)	12.8	52.8	19.6	3.9	0.6	9.4	0.9	65.6	4.5
10歳代 (17)	5.9	58.8	23.5	5.9	0.0	5.9	0.0	64.7	5.9
20歳代 (39)	12.8	51.3	20.5	5.1	0.0	10.3	0.0	64.1	5.1
30歳代 (73)	11.0	42.5	21.9	5.5	4.1	12.3	2.7	43.5	9.6
40歳代 (114)	15.8	45.6	21.1	4.4	0.0	13.2	0.0	61.4	4.4
50歳代 (147)	12.9	53.7	21.1	4.8	0.0	6.8	0.7	66.6	4.8
60歳代 (148)	12.2	61.5	15.5	1.4	0.0	8.1	1.4	73.7	1.4
男性全体 (344)	7.8	41.6	34.0	9.3	0.9	5.8	0.6	49.4	15.8
10歳代 (8)	0.0	50.0	25.0	12.5	0.0	12.5	0.0	50.0	12.5
20歳代 (30)	3.3	40.0	30.0	13.3	0.0	10.0	3.3	43.3	13.3
30歳代 (43)	11.6	25.6	39.5	9.3	0.0	14.0	0.0	37.2	9.3
40歳代 (73)	4.1	39.7	35.6	11.0	1.4	8.2	0.0	43.8	12.4
50歳代 (76)	11.8	32.9	39.5	10.5	2.6	1.3	1.3	44.7	13.1
60歳代 (114)	7.9	54.4	28.9	6.1	0.0	2.6	0.0	62.3	6.1

男女共に「どちらかといえば男性が優遇されている」が最も高かった。

前回調査と比較すると、「男性優遇 (計)」の回答が増加しているが、それは10～20歳代の数値の大きな上昇が要因となっている。

(ウ) 学校教育の場で

[%]

(n=884)	男性優遇 (計)		平等である	女性優遇 (計)		わからない	無回答	男性優遇 (計)	女性優遇 (計)
	男性の方が 非常に優遇されている	どちらかといえば 男性が優遇されている		女性の方が 非常に優遇されている	どちらかといえば 女性が優遇されている				
全体	3.6	20.8	52.9	4.3	0.7	17.0	0.8	24.4	5.0
女性全体 (540)	4.1	23.0	48.9	4.1	0.4	18.9	0.7	27.1	4.5
10歳代 (17)	5.9	11.8	70.6	5.9	0.0	5.9	0.0	17.7	5.9
20歳代 (39)	7.7	20.5	41.0	7.7	0.0	23.1	0.0	28.2	7.7
30歳代 (73)	0.0	20.5	52.1	4.1	0.0	23.3	0.0	20.5	4.1
40歳代 (114)	7.0	20.2	50.9	7.0	0.9	14.0	0.0	27.2	7.9
50歳代 (147)	4.8	23.1	48.3	2.7	0.7	19.0	1.4	27.9	3.4
60歳代 (148)	2.0	28.4	45.9	2.0	0.0	20.3	1.4	30.4	2.0
男性全体 (344)	2.6	17.2	59.6	4.7	0.9	14.5	0.6	19.8	5.6
10歳代 (8)	0.0	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0
20歳代 (30)	0.0	13.3	60.0	10.0	0.0	16.7	0.0	13.3	10.0
30歳代 (43)	2.3	7.0	62.8	0.0	0.0	27.9	0.0	9.3	0.0
40歳代 (73)	2.7	13.7	54.8	9.6	0.0	17.8	1.4	16.4	9.6
50歳代 (76)	5.3	17.1	63.2	2.6	2.6	9.2	0.0	22.4	5.2
60歳代 (114)	1.8	23.7	59.6	1.8	0.9	11.4	0.9	25.5	2.7

男性の全年代で、「平等である」と回答した人が50～60%以上と半数を占めているが、女性の場合は前回調査よりも少なくなっている。(前回調査では、女性の全年代が半数を超えていた。)

(エ) 職場の中で

[%]

(n=884)	男性優遇 (計)		平等 である	女性優遇 (計)		わからない	無 回 答	男性優 遇 (計)	女性優 遇 (計)
	男性の方が 非常に優遇 されている	どちらか といえ ば男性が 優遇され ている		女性 が優遇 されて いる	どちら かとい えれば 女性 が優遇 されて いる				
全体	16.3	39.0	27.5	6.6	1.5	7.8	1.2	62.3	8.5
女性全体 (540)	19.4	40.7	25.4	3.7	0.4	9.1	1.3	60.1	4.1
10歳代 (17)	17.6	35.3	23.5	0.0	0.0	23.5	0.0	52.9	0.0
20歳代 (39)	7.7	35.9	35.9	7.7	2.6	10.3	0.0	43.6	10.3
30歳代 (73)	15.1	31.5	31.5	9.6	1.4	9.6	1.4	46.6	11.0
40歳代 (114)	26.3	28.9	32.5	1.8	0.0	9.6	0.9	55.2	1.8
50歳代 (147)	19.0	41.5	23.8	3.4	0.0	11.6	0.7	60.5	3.4
60歳代 (148)	20.3	54.7	16.2	2.0	0.0	4.1	2.7	75.0	2.0
男性全体 (344)	11.0	36.0	31.1	11.6	2.9	6.4	0.9	47.0	14.5
10歳代 (8)	12.5	37.5	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	50.0	0.0
20歳代 (30)	13.3	26.7	26.7	16.7	3.3	13.3	0.0	40.0	20.0
30歳代 (43)	4.7	34.9	25.6	11.6	4.7	18.6	0.0	39.6	16.3
40歳代 (73)	15.1	32.9	32.9	9.6	6.8	2.7	0.0	48.0	16.4
50歳代 (76)	10.5	39.5	30.3	14.5	2.6	1.3	1.3	50.0	17.1
60歳代 (114)	10.5	38.6	34.2	10.5	0.0	4.4	1.8	49.1	10.5

女性の60.1%、男性の47.0%が、「男性優遇 (計)」と回答している。

前回調査と比較すると、性別問わず10～30歳代で変化が生じ、「男性優遇 (計)」の回答が減少し、「平等である」の回答が増加した。

(オ) 法律や制度の中で

[%]

(n=884)	男性優遇 (計)		平等 である	女性優遇 (計)		わからない	無 回答	男性 優遇 (計)	女性 優遇 (計)
	男性の 方が 非常に 優遇さ れてい る	どちら かとい えは 男性が 優遇さ れてい る		女性 が優 遇さ れて いる	女性 の方 が 非 常に 優 遇さ れて いる				
全体	11.7	38.9	28.9	6.7	1.1	11.5	1.2	50.6	7.8
女性全体 (540)	15.2	43.3	21.7	4.4	0.4	13.5	1.5	58.5	4.8
10歳代 (17)	17.6	41.2	17.6	0.0	0.0	23.5	0.0	58.8	0.0
20歳代 (39)	20.5	25.6	23.1	0.0	0.0	28.2	2.6	46.1	0.0
30歳代 (73)	12.3	42.5	15.1	11.0	1.4	17.8	0.0	54.8	12.4
40歳代 (114)	14.9	41.2	21.9	8.8	0.0	13.2	0.0	56.1	8.8
50歳代 (147)	15.5	48.3	19.0	3.4	0.7	11.6	2.0	63.8	4.1
60歳代 (148)	15.0	45.3	27.7	0.7	0.0	8.1	2.7	60.3	0.7
男性全体 (344)	6.1	30.8	41.3	10.2	2.0	9.0	0.6	36.9	12.2
10歳代 (8)	0.0	25.0	25.0	25.0	12.5	12.5	0.0	25.0	37.5
20歳代 (30)	3.3	30.0	40.0	10.0	3.3	13.3	0.0	33.3	13.3
30歳代 (43)	9.3	20.9	25.6	14.0	0.0	25.6	4.7	30.2	14.0
40歳代 (73)	5.5	28.8	38.4	13.7	1.4	12.3	0.0	34.3	15.1
50歳代 (76)	9.2	28.9	47.4	7.9	3.9	2.6	0.0	38.1	11.8
60歳代 (114)	4.4	37.7	46.5	7.0	0.9	3.5	0.0	42.1	7.9

女性は、「男性優遇 (計)」と回答した人が、58.5%で最も多く (男性の回答は 36.9%)、男性は「平等である」と回答した人が 41.3%と最も多い (女性の回答は 21.7%)。

こちらは前回調査時も同様であり、男女で平等意識の差が生じている。

(カ) 政治の場で

[%]

(n=884)	男性優遇 (計)		平等 である	女性優遇 (計)		わからない	無回答	男性優遇 (計)	女性優遇 (計)
	男性の方が 非常に優遇 されている	どちらか といえ ば男性が 優遇され ている		女性 が優遇 されて いる	女性 の方が 非常に 優遇さ れている				
全体	39.7	39.6	11.5	1.0	0.3	6.8	1.0	79.3	1.3
女性全体 (540)	44.1	38.9	6.7	0.6	0.0	8.7	1.1	83.0	0.6
10歳代 (17)	41.2	35.3	5.9	0.0	0.0	17.6	0.0	76.5	0.0
20歳代 (39)	38.5	43.6	7.7	0.0	0.0	10.3	0.0	82.1	0.0
30歳代 (73)	38.4	39.7	6.8	0.0	0.0	13.7	1.4	78.1	0.0
40歳代 (114)	49.1	30.7	9.6	0.9	0.0	9.6	0.0	79.8	0.9
50歳代 (147)	47.6	38.1	2.7	0.7	0.0	10.2	0.7	85.7	0.7
60歳代 (148)	41.2	45.3	8.1	0.7	0.0	2.0	2.7	86.5	0.7
男性全体 (344)	32.6	41.6	18.6	1.7	0.6	4.4	0.6	74.2	2.3
10歳代 (8)	12.5	50.0	25.0	0.0	0.0	12.5	0.0	62.5	0.0
20歳代 (30)	30.0	26.7	30.0	3.3	3.3	6.7	0.0	56.7	6.6
30歳代 (43)	34.9	37.2	18.6	2.3	0.0	7.0	0.0	72.1	2.3
40歳代 (73)	28.8	46.6	16.4	1.4	0.0	6.8	0.0	75.4	1.4
50歳代 (76)	31.6	47.4	13.2	2.6	1.3	2.6	1.3	79.0	3.9
60歳代 (114)	36.8	39.5	20.2	0.9	0.0	1.8	0.9	76.3	0.9

「男性優遇 (計)」と回答した人が、男女共に多い。この項目では、「男性の方が非常に優遇されている」の回答が他の項目と比べ多くなっている。

「男性優遇 (計)」を前回調査と比較すると、女性 77.8%→83.0%、男性 59.4%→74.2%となったことから、政治の場において、「男性が優遇されている」意識が高くなっていることがうかがえる。

(キ) 社会通念・習慣・しきたりなどで

[%]

(n=884)	男性優遇 (計)		平等である	女性優遇 (計)		わからない	無回答	男性優遇 (計)	女性優遇 (計)
	男性の方が 非常に優遇されている	どちらかといえば 男性が優遇されている		女性の方が 非常に優遇されている	どちらかといえば 女性が優遇されている				
全体	29.4	51.0	11.4	2.1	0.2	5.6	0.3	76.9	3.4
女性全体 (540)	33.7	50.2	8.3	0.7	0.0	6.7	0.4	83.9	0.7
10歳代 (17)	23.5	41.2	29.4	0.0	0.0	5.9	0.0	64.7	0.0
20歳代 (39)	30.8	46.2	7.7	2.6	0.0	12.8	0.0	77.0	2.6
30歳代 (73)	32.9	45.2	12.3	0.0	0.0	9.6	0.0	78.1	0.0
40歳代 (114)	37.7	43.9	8.8	0.9	0.0	7.9	0.9	81.6	0.9
50歳代 (147)	36.7	53.7	1.4	0.7	0.0	6.8	0.7	90.4	0.7
60歳代 (148)	29.7	56.1	10.8	0.7	0.0	2.7	0.0	85.8	0.7
男性全体 (344)	22.4	53.5	15.1	4.4	0.3	4.4	0.0	75.9	4.7
10歳代 (8)	25.0	25.0	25.0	12.5	0.0	12.5	0.0	50.0	12.5
20歳代 (30)	20.0	46.7	20.0	3.3	0.0	10.0	0.0	66.7	3.3
30歳代 (43)	25.6	46.5	14.0	4.7	0.0	9.3	0.0	72.1	4.7
40歳代 (73)	20.5	52.1	15.1	8.2	0.0	4.1	0.0	72.6	8.2
50歳代 (76)	23.7	52.6	18.4	1.3	1.3	2.6	0.0	76.3	2.6
60歳代 (114)	21.9	61.4	11.4	3.5	0.0	1.8	0.0	83.3	3.5

女性全体で83.9%、男性全体で75.9%と、「男性優遇 (計)」の回答が多かった。
 前回調査時と大きな変化はなく、依然として男性優遇の意識が強い項目といえる。

(ク) 人生を決める選択肢や自由さ

[%]

(n=884)	男性優遇 (計)		平等である	女性優遇 (計)		わからない	無回答	男性優遇 (計)	女性優遇 (計)
	男性の方が 非常に優遇されている	どちらかといえば 男性が優遇されている		女性が優遇されている	どちらかといえば 女性が優遇されている				
全体	17.0	45.4	27.9	3.1	0.6	5.5	0.6	62.4	3.7
女性全体 (540)	20.7	45.9	24.3	2.6	0.2	5.6	0.7	66.6	2.8
10歳代 (17)	11.8	47.1	29.4	0.0	0.0	5.9	5.9	58.9	0.0
20歳代 (39)	25.6	41.0	17.9	2.6	2.6	7.7	2.6	66.6	5.2
30歳代 (73)	26.0	43.8	16.4	2.7	0.0	11.0	0.0	69.8	2.7
40歳代 (114)	24.6	45.6	23.7	2.6	0.0	3.5	0.0	70.2	2.6
50歳代 (147)	24.5	44.2	23.1	2.0	0.0	5.4	0.7	68.7	2.0
60歳代 (148)	11.5	50.0	30.4	3.4	0.0	4.1	0.7	61.5	3.4
男性全体 (344)	11.3	44.2	33.7	4.1	0.9	5.8	0.0	55.5	5.0
10歳代 (8)	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	50.0	0.0
20歳代 (30)	16.7	36.7	33.3	0.0	0.0	13.3	0.0	53.4	0.0
30歳代 (43)	14.0	37.2	34.9	2.3	2.3	9.3	0.0	51.2	4.6
40歳代 (73)	6.8	47.9	34.2	4.1	0.0	6.8	0.0	54.7	4.1
50歳代 (76)	13.2	35.5	39.5	6.6	2.6	2.6	0.0	48.7	9.2
60歳代 (114)	9.6	53.5	29.8	4.4	0.0	2.6	0.0	63.1	4.4

この項目においては、「男性の方が非常に優遇されている」の回答が前回調査と比較して高く、女性で13.9%→20.7%、男性で7.7%→11.3%となった。

(ケ) 社会全体でみた場合

[%]

(n=884)	男性優遇 (計)		平等である	女性優遇 (計)		わからない	無回答	男性優遇 (計)	女性優遇 (計)
	男性の方が 非常に優遇されている	どちらかといえば 男性が優遇されている		女性の方が 非常に優遇されている	どちらかといえば 女性が優遇されている				
全体	14.3	59.6	14.7	2.6	0.6	7.6	0.6	73.9	3.2
女性全体 (540)	17.8	62.2	10.0	1.1	0.2	8.1	0.6	80.0	1.3
10歳代 (17)	5.9	64.7	17.6	0.0	0.0	11.8	0.0	70.6	0.0
20歳代 (39)	17.9	61.5	7.7	0.0	0.0	12.8	0.0	79.4	0.0
30歳代 (73)	16.4	49.3	12.3	5.5	1.4	15.1	0.0	65.7	6.9
40歳代 (114)	20.2	59.6	12.3	0.0	0.0	7.9	0.0	79.8	0.0
50歳代 (147)	23.8	59.9	6.8	0.7	0.0	7.5	1.4	83.7	0.7
60歳代 (148)	12.2	72.3	10.1	0.7	0.0	4.1	0.7	84.5	0.7
男性全体 (344)	9.0	55.8	21.8	5.2	0.6	7.3	0.3	64.8	5.8
10歳代 (8)	25.0	12.5	50.0	0.0	0.0	12.5	0.0	37.5	0.0
20歳代 (30)	6.7	56.7	10.0	10.0	0.0	16.7	0.0	63.4	10.0
30歳代 (43)	4.7	44.2	25.6	9.3	0.0	16.3	0.0	48.9	14.3
40歳代 (73)	9.6	54.8	19.2	6.8	0.0	9.6	0.0	64.4	6.8
50歳代 (76)	11.8	52.6	25.0	3.9	2.6	2.6	1.3	64.4	6.5
60歳代 (114)	7.9	65.8	21.1	2.6	0.0	2.6	0.0	73.7	2.6

女性 80.0%、男性 64.8%と「男性優遇 (計)」の回答が多かったが、男女差が 15.2 ポイント開いている。前回調査と変化はなく、社会全体でみても、「男性優遇」の意識が強いことがわかる。

2 家庭生活について

問3 あなたは現在、結婚されていますか。次の中からあてはまるものを選んでください。(〇は1つ)

[%]

	全体 (884)	女性 (540)	男性 (344)
結婚している (事実婚含む)	69.3	71.3	67.7
結婚していたが、離別・死別した	8.2	9.6	5.2
結婚していない	20.9	18.0	25.3
無回答	1.7	1.1	1.7

「結婚している」が69.3%であり、「結婚していたが、離別・死別した」は8.2%、「結婚していない」は20.9%となっている。

前回調査と大きな変化はなかった。

(問3で結婚している (事実婚含む) を選んだ方のみ回答)

問3-1 ご自身及びパートナーの就労状況はどれですか。次の中からあてはまるものを選んでください。(〇は1つ)

[%]

	全体 (630)	女性 (391)	男性 (239)
共働きしている	56.1	58.8	52.3
自分だけ働いている	15.9	5.9	32.6
パートナーだけ働いている	15.6	23.8	2.5
どちらも働いていない	9.0	8.7	9.2

「共働きしている」が56.1%と半数以上を占め、前回調査と比較すると、37.0%→56.1%となり、大きな増加傾向にある。

(問3で結婚している(事実婚含む)を選んだ方のみ回答)

問4 あなたの家庭(事実婚で同居している場合を含む)では、次の(ア)～(サ)の事柄を主に誰が担っていますか。それぞれの項目ごとに、あてはまるものを選んでください。

※「その他」には、ボランティア、ホームヘルパー、各種家事代行も含まれます。

※n=630(女性:391、男性:239)

(ア) 食事の支度

	全体	性別	
		女性	男性
夫	2.5	2.3	2.1
妻	83.5	83.4	81.2
夫婦同程度	11.4	11.0	11.3
その他家族	1.3	1.0	1.7
その他(※)	0.6	0.0	1.7
該当なし	2.7	2.3	2.1

(イ) 食事の後片付け・食器洗い

	全体	性別	
		女性	男性
夫	10.2	6.9	14.6
妻	64.3	70.8	51.9
夫婦同程度	23.2	18.4	29.3
その他家族	1.0	1.0	0.8
その他(※)	0.5	0.0	1.3
該当なし	3.0	2.8	2.1

(ウ) 日用品・食料品などの買い物

	全体	性別	
		女性	男性
夫	3.5	2.6	2.3
妻	61.0	64.7	65.0
夫婦同程度	33.0	28.6	24.7
その他家族	0.8	1.0	0.4
その他(※)	0.8	0.5	1.3
該当なし	3.0	2.6	2.5

(エ) 洗濯

	全体	性別	
		女性	男性
夫	6.0	3.8	9.2
妻	77.3	77.7	73.6
夫婦同程度	15.1	15.3	13.8
その他家族	0.6	0.8	0.4
その他(※)	0.3	0.0	0.8
該当なし	2.7	2.3	2.1

(オ) 掃除

	全体	性別	
		女性	男性
夫	5.6	2.8	9.2
妻	69.4	75.7	57.7
夫婦同程度	23.5	18.2	30.1
その他家族	0.8	1.3	0.0
その他(※)	0.3	0.0	0.8
該当なし	2.5	2.0	2.1

(カ) 資産・財産の管理(土地・家屋の購入など)

	全体	性別	
		女性	男性
夫	47.8	44.5	51.9
妻	21.9	22.8	18.8
夫婦同程度	28.7	29.4	26.4
その他家族	0.6	0.8	0.4
その他(※)	0.5	0.3	0.8
該当なし	2.5	2.3	1.7

(キ) 家計費管理

	全体	性別	
		女性	男性
夫	17.3	14.8	20.1
妻	62.7	63.7	59.4
夫婦同程度	18.6	18.2	18.0
その他家族	0.5	0.5	0.4
その他(※)	0.5	0.5	0.4
該当なし	2.5	2.3	1.7

(ク) 自治会・町内会の出席

	全体	性別	
		女性	男性
夫	30.8	25.8	37.7
妻	34.1	38.4	25.1
夫婦同程度	17.9	16.6	20.1
その他家族	0.8	1.0	0.0
その他(※)	0.8	0.5	0.8
該当なし	14.4	14.8	13.8

(ケ) 学校行事などへの参加

	全体	性別	
		女性	男性
夫	2.1	1.3	3.3
妻	50.2	55.5	38.9
夫婦同程度	17.8	13.3	24.7
その他家族	0.3	0.5	0.0
その他(※)	1.3	0.8	1.7
該当なし	27.1	25.8	28.9

(コ) 子育て

	全体	性別	
		女性	男性
夫	0.3	0.0	0.8
妻	45.1	46.5	40.2
夫婦同程度	28.3	26.1	31.4
その他家族	0.3	0.5	0.0
その他(※)	1.3	0.5	2.1
該当なし	23.8	23.8	23.45

(サ) 高齢者・病人などの介護

	全体	性別	
		女性	男性
夫	2.2	1.3	3.8
妻	23.7	28.9	13.8
夫婦同程度	16.5	13.6	20.9
その他家族	0.3	0.3	0.4
その他(※)	1.3	0.5	2.5
該当なし	54.9	52.7	56.5

家庭において、「夫」の役割分担が多いものとしては、「資産・財産の管理（土地・家屋等の購入など）」(47.8%)があげられる。一方、「妻」の場合は、「食事の支度」(83.5%)、「洗濯」(77.3%)があげられる。

前回調査と比較すると、共働き世帯数は大幅に増加したものの、家庭の役割分担の変化はほとんど見られない結果となった。

問5 男性が家事や育児、介護をすることについて、どのようなイメージをお持ちですか。(〇はいくつでも)

[%]

	全体	性別	
		女性	男性
男性も家事や育児などをするのは当然だ	72.1	74.8	68.9
男性自身も充実感が得られる	30.9	30.4	32.8
子どもにいい影響を与える	58.5	64.1	50.6
仕事と両立することは、現実として難しい	37.7	35.9	41.6
家事・育児・介護は女性の方が向いている	10.0	7.6	13.7
男性は、家事・育児・介護を行うべきでない	0.4	0.0	0.6
特にない	2.4	1.9	2.9
その他	3.4	3.9	2.9
無回答	0.0	0.0	0.0

「男性も家事や育児などをするのは当然だ」が72.1%であり、前回の64.6%から上昇となったが、問4をみると、現実には妻の家事負担量が多い結果となっている。

[性・年代別]

上段：女性 [%]

下段：男性 [%]

(女性:540、男性:344)	全体	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
男性も家事や育児などをするのは当然だ	74.8 68.9	76.5 62.5	79.5 80.0	82.2 65.1	69.3 75.3	74.8 61.8	73.6 68.4
男性自身も充実感が得られる	30.4 32.8	17.6 37.5	30.8 40.0	32.9 23.3	30.7 27.4	27.2 32.9	33.8 37.7
子どもにいい影響を与える	64.1 50.6	76.5 62.5	69.2 66.7	67.1 37.2	63.2 50.7	60.5 46.1	64.2 53.5
仕事と両立することは、現実として難しい	35.9 41.6	5.9 25.0	30.8 46.7	28.8 46.5	35.1 47.9	42.2 42.1	39.2 35.1
家事・育児・介護は女性の方が向いている	7.6 13.7	5.9 12.5	10.3 20.0	4.1 14.0	9.6 13.7	7.5 14.5	7.4 11.4
男性は、家事・育児・介護を行うべきでない	0.0 0.6	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 1.4	0.0 0.0	0.0 0.9
特にない	1.9 2.9	5.9 0.0	5.1 3.3	0.0 2.3	1.8 2.7	2.7 5.3	0.7 1.8
その他	3.9 0.6	0.0 12.5	2.6 0.0	1.4 2.3	4.4 5.5	4.1 3.9	5.4 0.9
無回答	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0

「仕事と両立することは、現実として難しい」に注目すると、男性と女性（10～40歳代）の回答で12ポイント以上の差が生じている。家事や育児、介護参加の環境が、特に男性に整っていないことが読み取れる。

問6 家事や育児、介護などの家庭内の役割を男性も担うには、どうしたらよいと思いますか。(〇はいくつでも)

[%]

(n=884)	行政が、男性の家事・育児・介護への参加を促す啓発活動・学習活動を実施する	家庭で男性に家事・育児・介護への参加を強く要望する	男性も家事・育児・介護の仕方自身につける	女性が経済的に自立する	男性の労働時間を短くする	働き方（就業の時間や場所）を個人の裁量で決められるようにする	わからない	その他	無回答
全体	33.4	21.0	59.4	28.8	39.2	52.6	3.4	9.1	0.0
女性全体 (540)	38.9	25.4	65.2	33.1	33.5	52.6	3.3	8.7	0.0
10歳代 (17)	52.9	23.5	58.8	23.5	41.2	47.1	5.9	5.9	0.0
20歳代 (39)	43.6	28.2	71.8	33.3	33.3	74.4	5.1	10.3	0.0
30歳代 (73)	39.7	34.2	63.0	39.7	43.8	60.3	1.4	9.6	0.0
40歳代 (114)	29.8	21.9	57.0	31.6	38.6	44.7	4.4	10.5	0.0
50歳代 (147)	33.3	25.2	62.6	35.4	29.9	57.8	4.1	8.8	0.0
60歳代 (148)	47.3	23.6	73.6	30.4	27.0	44.6	2.0	6.8	0.0
男性全体 (344)	23.8	14.5	51.7	21.5	49.7	53.2	3.2	9.0	0.0
10歳代 (8)	12.5	12.5	75.0	37.5	62.5	25.0	12.5	0.0	0.0
20歳代 (30)	23.3	16.7	76.7	16.7	66.7	63.3	0.0	3.3	0.0
30歳代 (43)	23.3	11.6	34.9	23.3	65.1	72.1	2.3	4.7	0.0
40歳代 (73)	9.6	13.7	43.8	17.8	47.9	49.3	1.4	17.8	0.0
50歳代 (76)	21.1	11.8	42.1	17.1	46.1	51.3	6.6	11.8	0.0
60歳代 (114)	36.0	17.5	61.4	26.3	42.1	49.1	2.6	5.3	0.0

男性の場合、20～30歳代で、「働き方（就業の時間や場所）を個人の裁量で決められるようにする」、「男性の労働時間を短くする」が60%以上となっている。仕事を始める世代、子育てを始める世代の男性にとって、働き方の柔軟性が特に求められていることがうかがえる。

前回調査と比較して、大きな数値変化はなかった。

3 子育て・教育について

問7 子どもを育てる場合、どのようにしたいと思いますか。(〇は1つ)

[%]

	全体	女性	男性
性別によって 育て方を変えた方がよい	12.8	6.6	21.5
性別にかかわらず、同じように 区別しないで育てた方がよい	66.3	72.6	54.9
どちらとも言えない (わからない)	22.3	72.6	54.9

「性別にかかわらず、同じように区別しないで育てた方がよい」が 66.3%を占めており、前回調査と比較すると、男女共に上昇傾向にあるが、特に女性の伸びが顕著であった。(全体 54.7%→66.3%、女性 58.1%→72.6%、男性 50.0%→54.9%)

[性・年代別]

上段：女性 [%]
下段：男性 [%]

	全体	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
性別によって、 育て方を変えた方がよい	6.6	0.0	17.9	4.1	12.3	3.4	4.1
	21.5	25.0	26.7	25.6	28.8	13.2	17.5
性別にかかわらず、同じように 区別しないで育てた方がよい	72.6	58.8	56.4	79.5	65.8	74.1	75.0
	54.9	62.5	43.3	55.8	41.1	63.2	56.1
どちらとも言えない (わからない)	20.8	41.2	25.6	16.4	21.9	19.7	18.9
	23.6	12.5	26.7	16.3	27.4	21.1	23.7

性別で見ると、「性別にかかわらず、同じように区別しないで育てた方がよい」と回答した人は、10歳代以外、男性よりも女性が多くなっている。

問 8 家庭・学校や地域社会において、これからどんな教育や習慣の見直しが重要であると思いますか。次の（ア）～（ク）の項目ごとに1～4の中からあてはまるものを選んでください。（○は項目ごとに1つずつ）

[%]

	重要である (計)		重要でない (計)		無回答	重要である (計)	重要でない (計)
	非常に重要であると思う	重要であると思う	あまり重要であるとは思わない	重要ではないと思う			
女らしい、あるいは男らしい遊びや習慣を押し付けないようにする	28.0	43.7	20.4	6.3	1.5	71.7	26.7
男女の区別なく、同じように家事の分担をさせる	41.9	47.1	7.4	2.3	1.2	89.0	9.7
出席簿や座席など、男女で分ける習慣をなくす	18.2	30.1	38.4	12.0	1.2	48.3	50.4
男女の区別なく、能力や個性を生かせるように指導する	58.5	35.8	3.1	1.3	1.3	94.3	4.4
男女の差別的な社会の仕組みや歴史について、認識を深める	32.3	43.6	17.5	4.5	2.0	75.9	22.0
校長・教頭などに女性を積極的に登用する	22.6	39.4	29.7	7.2	1.1	62.0	36.9
性についての正しい十分な教育を行う	46.1	44.4	7.5	0.7	1.3	90.5	8.2
多様な結婚観・家庭観があることを教える	39.2	45.4	11.8	2.4	1.2	84.6	14.2

「重要である（計）」において、「男女の区別なく、能力や個性を生かせるように指導する」が94.3%で最も高く、以下、「性についての正しい十分な教育を行う」（90.5%）、「男女の区別なく、同じように家事の分担をさせる」（89.0%）と続いており、前回調査同様の順となっている。

[性・年代別]

上段：女性 [%]

下段：男性 [%]

	重要である (計)		重要でない (計)		無回答	重要で ある (計)	重要で ない (計)
	非常に 重要で あると 思う	重要で あると 思う	あまり 重要で あると は思わ ない	重要で はない と思う			
女らしい、あるいは男らしい遊びや 習慣を押し付けないようにする	31.5 22.7	45.4 42.4	17.4 25.3	4.3 8.4	1.5 1.2	76.9 65.1	21.7 33.7
男女の区別なく、同じように 家事の分担をさせる	48.1 32.6	44.4 52.0	5.0 11.6	0.9 3.5	1.5 0.3	92.5 84.6	5.9 15.1
出席簿や座席など、 男女で分ける習慣をなくす	18.9 17.7	30.9 29.1	40.4 35.8	8.3 17.2	1.5 0.3	49.8 46.8	48.7 53.0
男女の区別なく、 能力や個性を生かせるように指導する	59.6 57.6	35.9 36.0	2.2 4.4	0.9 1.2	1.3 0.9	95.5 93.6	3.1 5.6
男女の差別的な社会の仕組みや 歴史について、認識を深める	31.1 34.3	44.4 43.0	18.7 16.6	3.1 5.5	2.6 0.6	75.5 77.3	21.8 22.1
校長・教頭などに女性を 積極的に登用する	21.9 24.7	43.7 33.4	29.8 28.8	3.5 12.5	1.1 0.6	65.6 58.1	33.3 41.3
性についての正しい十分な教育を行う	49.1 41.9	43.0 46.8	6.3 9.9	0.4 0.6	1.3 0.9	92.1 88.7	1.7 10.5
多様な結婚観・家庭観 があることを教える	40.7 36.3	45.6 46.8	10.6 13.7	1.7 2.9	1.5 0.3	86.3 83.1	12.3 16.6

「男女の区別なく、能力や個性を生かせるように指導する」を「重要である (計)」という人は、男女共に90%を上回っている。また、「性についての正しい十分な教育を行う」、「多様な結婚観・家庭観があることを教える」、「男女の区別なく、同じように家事の分担をさせる」についても、性別問わず「重要である (計)」が80%以上となっている。

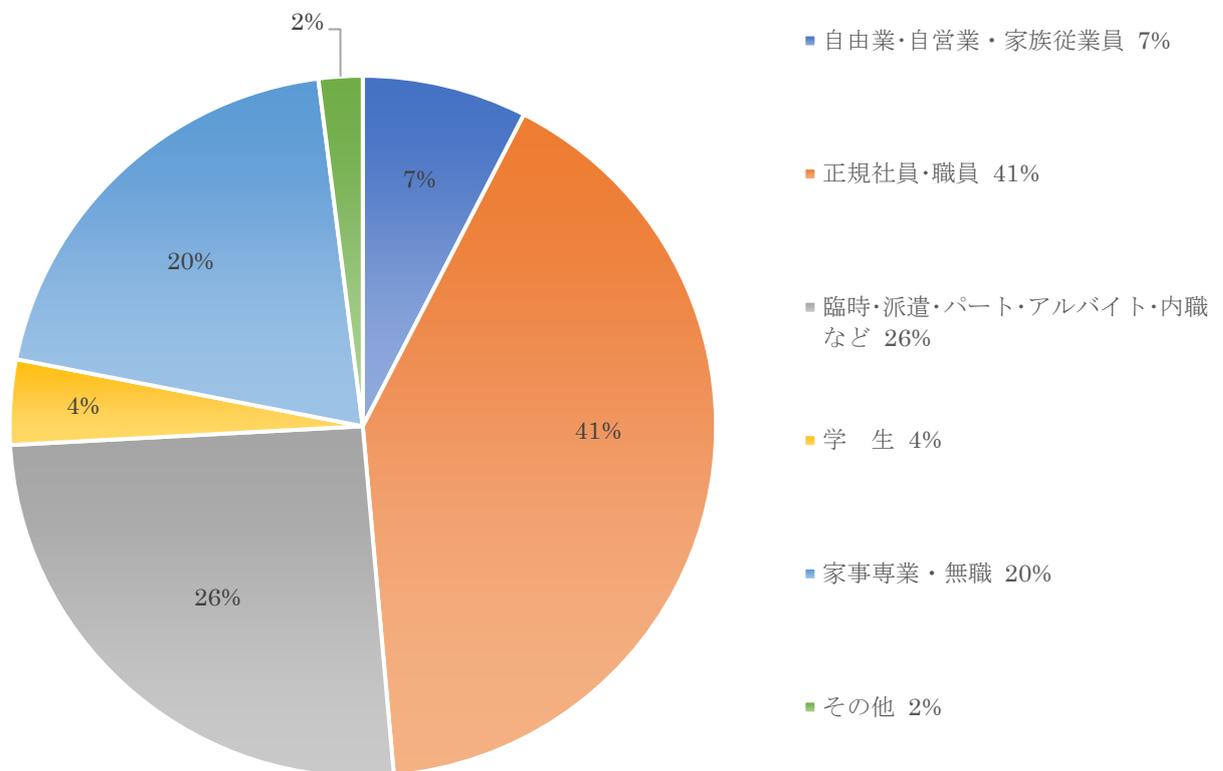
前回調査と比べると、どの項目も数値が伸びており、この分野に対する意識が強くなっていることがうかがえる。

4 職業（就業）について

問9 あなたのご職業は何ですか。次の中からあてはまるものを選んでください。
(〇は1つ)

- | | |
|-------------------------|------------|
| 1. 自由業・自営業・家族従業員 | 4. 学 生 |
| 2. 正規社員・職員 | 5. その他 () |
| 3. 臨時・派遣・パート・アルバイト・内職など | 6. 無 職 |

職業（就業）



(問10~13については、問9で1, 2, 3を選んだ方のみ回答)

問10 あなたの職場では、性別により仕事の内容や待遇面で差別がありますか。(〇は1つ)

[%]

	全体 (657)	女性 (366)	男性 (271)
差別がある	27.0	23.2	31.0
差別はない	73.0	76.8	69.0
無回答	0.0	0.0	0.0

職場での差別の有無は、「差別がある」が27.0%、「差別はない」が73.0%となっている。
「差別がある」と感じている割合は、女性よりも男性が多い結果となった。

(問 10 で「差別がある」とお答えの方に)

問 10-1 具体的にどのようなことがありますか。(〇はいくつでも)

[%]

	全体 (176)	女性 (85)	男性 (84)
賃金に男女差がある	31.3	38.8	25.0
昇給、昇格に男女差がある	42.6	47.1	36.9
性別によって能力を適正に評価しない	22.7	29.4	16.7
性別によって配置場所が限られている	47.2	44.7	50.0
性別によって仕事内容が決められてしまう	45.5	32.9	56.0
女性を幹部に登用しない	26.1	22.4	28.6
結婚や出産で 退職しなければならない雰囲気がある	9.7	10.6	8.3
育児・介護休業(休暇)の制度を 利用しにくい雰囲気がある	25.0	25.9	25.0
中高年以上の女性に 退職を勧める雰囲気がある	8.5	12.9	1.2
女性が教育や研修等を受ける機会がない	10.8	16.5	4.8
その他	12.5	12.9	11.9
無回答	0.6	0.0	0.0

女性では「昇給、昇格に男女差がある」が 47.1%となっているほか、「性別によって能力を適正に評価しない」が 29.4%となっている。一方、男性では「性別によって仕事内容が決められてしまう」が 56.0%、「性別によって配置場所が限られている」50.0%となっており、性別によって具体的な内容に違いがあることがわかる。

問 11 あなたが、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」のうち優先したいものはどれですか。
次の1～8の中から、あなたの理想と現状を1つずつ選んでください。

上段：(1)理想 [%]

下段：(2)現実 [%]

		全体 (655)	女性 (373)	男性 (282)
「仕事」を優先	したい	2.3	0.5	4.6
	している	35.9	28.4	45.4
「家庭生活」を優先	したい	19.3	20.4	18.1
	している	16.9	24.9	6.7
「地域・個人の生活」を優先	したい	4.7	4.6	5.0
	している	1.4	1.3	1.4
「仕事」と「家庭生活」をともに優先	したい	29.0	29.2	27.7
	している	28.1	28.2	26.2
「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	したい	3.3	1.9	4.6
	している	3.9	2.4	5.7
「家庭生活」を「地域・個人の生活」とともに優先	したい	11.2	11.0	11.3
	している	2.0	2.4	1.1
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を ともに優先	したい	28.2	30.0	24.8
	している	9.2	8.6	9.6
わからない	したい	2.0	1.3	2.8
	している	2.7	2.7	2.8

性別問わず、最も理想と現実で差があったのが「仕事」の項目であり、優先したいは2.3%だが、現実には35.9%の人が優先していると回答した。前回調査と同様の結果となった。

※家庭生活

家族とともに過ごすこと。家事（食事の支度・片付け、掃除、洗濯など）、育児、余暇、介護、看護など。

※地域・個人の生活

学習・研究、趣味、娯楽、スポーツ、ボランティア活動、社会活動、交際・つきあいなど。

問 12 育児休業や介護休業を取得したことがありますか。(〇は項目ごとに1つずつ)

「%」

		(最長取得期間 1年以上) 利用したことがある	(最長取得期間 1年未満) 利用したことがある	利用したことがない
育児休業	全体	6.3	7.8	87.1
	女性	10.4	9.9	79.7
	男性	0.7	5.4	93.9
介護休業	全体	0.2	1.9	98.0
	女性	0.0	2.5	97.5
	男性	0.0	1.1	98.9

男女共に、高い割合で育児休業も介護休業も「利用したことがない」と回答している。育児休業においては、特に男性の取得率が低い。

※最長取得期間

育児休業・介護休業を複数回取得した場合に、一番長い取得期間のこと。

(問 12 で「利用したことがない」とお答えの方)

問 12-1 育児休業、介護休業を取得しなかった理由は何ですか。(〇は項目ごとに1つずつ)

[%]

		取得したことがない			
		職場に制度がなかった	在職中に育児・介護をしたことがない	取得しなくても育児・介護に対応できた	取得したかったが、事情により取得できなかった
n=549 (女性：280 男性 258 無回答：11)					
育児休業	全体	23.1	50.8	18.8	7.3
	女性	16.4	66.1	12.1	5.4
	男性	30.6	33.7	26.0	9.7
介護休業	全体	14.9	71.9	16.4	4.6
	女性	10.4	70.0	15.1	4.4
	男性	17.4	62.9	15.5	4.2

男女共に、「在職中に育児・介護をしたことがない」が一番高い。一方、「職場に制度がなかった」と回答した男性も多い結果となった。

[性・年代別]

上段：女性 [%]

下段：男性 [%]

「育児休業」

	全体	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代
職場に制度がなかった	16.4	0.0	0.0	9.3	18.8	20.9	18.0
	30.6	0.0	0.0	8.8	21.3	36.4	51.3
在職中に育児をしたことがない	66.1	100	100	67.4	60.9	62.6	62.0
	33.7	100	100	14.7	34.4	27.3	15.8
取得しなくても育児に対応できた	12.1	0.0	0.0	9.3	13.0	13.2	18.0
	26.0	0.0	0.0	32.4	29.5	24.2	28.9
取得したかったが、事情により取得できなかった	5.4	0.0	0.0	14.0	7.2	3.3	2.0
	9.7	0.0	0.0	14.7	14.8	12.1	3.9

若い世代ほど「職場に制度がなかった」という回答は少なくなっている。

「取得しなくても育児に対応できた」を選択した比率に男女差がある状況は、男女で育児分担量に差があるためとも読み取れる。

「介護休業」

上段：女性 [%]

下段：男性 [%]

	全体	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代
職場に制度がなかった	10.4	0.0	0.0	4.5	8.2	11.5	20.0
	17.4	0.0	0.0	8.3	9.2	18.2	32.9
在職中に介護をしたことがない	70.0	100	91.7	88.6	82.4	63.5	40.0
	62.9	100	95.5	72.2	73.8	63.6	39.5
取得しなくても介護に対応できた	15.1	0.0	8.3	2.3	7.1	19.2	32.7
	15.5	0.0	5.0	16.7	12.3	12.1	23.7
取得したかったが、事情により取得できなかった	4.4	0.0	0.0	4.5	2.4	5.8	7.3
	4.2	0.0	0.0	2.8	4.6	6.1	3.9

問 13 育児休業、介護休業の今後の利用について、あなたはどうお考えですか。(〇は項目ごとに1つずつ)

[%]

		利用したいと思う	利用したいと思うが不安がある	利用したいと思わない	育児・介護休業を利用する予定がない	職場に制度がない	わからない
n=654 (女性：363 男性：278 無回答：13)							
育児休業	全体	28.0	11.2	2.6	47.8	3.7	6.7
	女性	30.6	5.8	1.1	53.6	3.3	5.6
	男性	24.6	18.6	4.3	41.1	3.6	7.9
介護休業	全体	40.5	18.8	2.6	20.5	8.6	9.0
	女性	46.0	14.3	1.1	20.1	10.5	8.0
	男性	33.8	24.8	4.3	21.2	5.8	10.1

利用する状況になった場合、「利用したいと思う」の回答が多い。一方、「利用したいと思うが不安がある」と回答した人も多いため、安心して取得できる環境整備が必要である。

問 14 女性の仕事と、結婚・出産等の関係について、あなたはどのようにお考えですか。(〇は1つ)

[%]

	全体	女性	男性
結婚や出産にかかわらず、 仕事をもち続けた方がよい	38.2	37.1	39.9
結婚や出産などで一時退職し、子どもが 大きくなったら再び仕事をもつ方がよい	13.8	11.9	17.2
子どもができるまで働く方がよい	1.0	0.8	1.5
結婚するまで働く方がよい	0.5	0.4	0.6
結婚や出産をしても仕事を続けた方が よいと思うが、現実的には難しい	22.9	27.8	15.1
生涯仕事をもたない方がよい	0.1	0.0	0.0
結婚や出産後は、パートタイム（短時間労働） に切り替えるなど負担を軽くする方がよい	12.2	12.3	12.4
その他	8.5	7.2	10.4
わからない	2.8	2.6	3.0

女性のライフコースとして、「結婚や出産にかかわらず、仕事をもち続けた方がよい」という「就労継続型」が38.2%と最も高い結果となった。次いで、「結婚や出産をしても仕事を続けた方がよいと思うが、現実的には難しい」が、22.9%となっている。

前回調査と比較すると、「結婚や出産にかかわらず、仕事を持ち続けた方がよい」の割合が高くなった。
(前回調査は、全体：30.0%→38.2%、女性：28.5%→37.1%、男性：31.9%→39.9%)

[性・年代別]

上段：女性 [%]

下段：男性 [%]

	全体	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代
結婚や出産にかかわらず、 仕事をもち続けた方がよい	37.1 39.9	29.4 37.5	17.9 23.3	43.8 23.3	37.7 44.4	34.0 36.8	42.1 48.2
結婚や出産などで一時退職し、 子どもが大きくなったら 再び仕事をもつ方がよい	11.9 17.2	17.6 37.5	17.9 16.7	9.6 14.0	7.0 20.8	11.6 15.8	15.0 14.9
子どもができるまで働く方がよい	0.8 1.5	0.0 0.0	0.0 0.0	1.4 0.0	0.9 1.4	1.4 2.6	0.0 1.8
結婚するまで働く方がよい	0.4 0.6	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	1.4 1.3	0.0 0.9
結婚や出産をしても 仕事を続けた方がよいと思うが、 現実的には難しい	27.8 15.1	47.1 0.0	41.0 30.0	16.4 18.6	24.6 8.3	27.2 10.5	29.3 17.5
生涯仕事をもたない方がよい	0.0 0.0						
結婚や出産後は、パートタイム (短時間労働)に切り替えるなど 負担を軽くする方がよい	12.3 12.4	0.0 12.5	12.8 20.0	17.8 16.3	15.8 12.5	10.9 13.2	9.3 7.9
その他	7.2 10.4	0.0 12.5	10.3 3.3	8.2 23.3	11.4 9.7	8.2 13.2	2.1 5.3
わからない	2.6 3.0	0.0 0.0	0.0 6.7	2.7 4.7	2.6 2.8	4.1 2.6	2.1 1.8

女性の場合、20歳代以外では、「結婚や出産にかかわらず、仕事をもち続けた方がよい」という「就労継続型」が3～4割前後となっている。次いで、「結婚や出産をしても仕事を続けた方がよいと思うが、現実的には難しい」が、女性全体で27.8%であり、20歳代の女性は、この項目が最も高い数値になっている。

男性の場合も、「結婚や出産にかかわらず、仕事をもち続けた方がよい」が最も多く、10歳代、40歳代、50歳代、60歳代では4～5割前後を占めている。仕事し始めの20歳代男女共に、女性が仕事をもち続けることに困難さを抱いていることが読み取れる。

問 15 男女が共に仕事や家庭、地域活動、趣味・娯楽などを両立していくためには、どのような取り組みが重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

[%]

	全体	女性	男性
育児・介護休業や休暇の取得や、 職場復帰がしやすい職場環境を整備する	76.8	80.0	74.4
育児・介護休業中の賃金や手当などの 経済的支援を充実する	63.0	64.6	63.4
地域や職場内の保育園や学童保育の整備、 保育時間の延長など保育内容を充実する	56.6	60.6	52.6
在宅勤務、フレックスタイム制度など、 柔軟な勤務制度を導入する	61.8	64.3	58.7
残業を減らすなど、年間労働時間を短縮する	43.5	43.3	45.3
管理職の意識や男性中心の職場運営を見直す	38.6	41.9	33.7
仕事と家庭を両立させていく事に対し、 周囲の理解や協力がある	58.1	64.1	51.2
再就職に関する相談や支援体制を充実させる	31.7	35.2	27.3
パートタイマーなど 非正規社員・職員の労働条件を改善する	43.7	50.4	34.6
その他	4.1	3.7	4.7
わからない	2.5	1.5	3.8
無回答	0.0	0.0	0.0

「育児・介護休業や休暇の取得や、職場復帰がしやすい職場環境を整備する」が76.8%で最も多く、大半の項目で男性より女性の数値が高くなっている。

前回調査と比較すると、「在宅勤務、フレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入する」の項目が上昇している(54.0%→61.8%)。

[性・年代別]

上段：女性 [%]
下段：男性 [%]

	全体	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
育児・介護休業や休暇の取得や、 職場復帰がしやすい職場環境を整備する	80.0 74.4	82.4 62.5	84.6 86.7	83.6 72.1	71.9 61.6	78.9 67.1	83.8 86.0
育児・介護休業中の賃金や手当などの 経済的支援を充実する	64.6 63.4	76.5 50.0	87.2 80.0	75.3 65.1	55.3 61.6	63.9 57.9	60.8 64.0
地域や職場内の保育園や学童保育の整備、 保育時間の延長など保育内容を充実する	60.6 52.6	70.6 62.5	56.4 63.3	58.9 51.2	50.0 47.9	62.6 43.4	68.2 58.8
在宅勤務、フレックスタイム制度など、 柔軟な勤務制度を導入する	64.3 58.7	52.9 62.5	71.8 73.3	72.6 58.1	67.5 61.6	60.5 50.0	60.8 58.8
残業を減らすなど、年間労働時間を短縮する	43.3 45.3	41.2 50.0	51.3 70.0	60.3 46.5	40.4 41.1	38.1 47.4	40.5 39.5
管理職の意識や男性中心の職場運営を見直す	41.9 33.7	41.2 25.0	46.2 40.0	42.5 37.2	37.7 26.0	42.9 31.6	42.6 37.7
仕事と家庭を両立させていく事に対し、 周囲の理解や協力がある	64.1 51.2	76.5 75.0	71.8 83.3	64.4 48.8	68.4 53.4	61.2 51.3	60.1 40.4
再就職に関する相談や支援体制を充実させる	35.2 27.3	41.2 25.0	46.2 40.0	35.6 18.6	31.6 21.9	31.3 30.3	38.5 28.9
パートタイマーなど 非正規社員・職員の労働条件を改善する	50.4 34.6	29.4 25.0	59.0 36.7	52.1 39.5	45.6 38.4	52.4 31.6	51.4 32.5
その他	3.7 4.7	0.0 0.0	10.3 0.0	5.5 14.0	7.0 4.1	2.0 5.3	0.7 2.6
わからない	1.5 3.8	0.0 12.5	5.1 3.3	1.4 0.0	2.6 4.1	1.4 10.5	0.0 0.0
無回答	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0

5 地域活動について

問 16 あなたは、この1年間、どのような地域活動に参加していましたか。(〇はいくつでも)

[%]

	全体	女性	男性
スポーツなど健康増進のための活動	12.3	12.4	12.2
趣味や文化・教養を高めるための活動	12.4	14.1	9.3
町内会や自治会の活動	22.7	21.1	25.9
P T Aや子ども会の活動	9.8	12.0	6.7
高齢者クラブの活動	1.8	1.7	1.7
国際交流関係の活動	1.1	0.7	1.2
自然保護関係の活動	1.5	1.5	1.5
防犯・防災関係の活動	4.5	2.2	8.1
その他	1.2	0.7	2.0
特になし	53.8	53.0	55.5
無回答	0.0	0.0	0.0

「特になし」が過半数を占め、前回調査と比較しても数値が上がっている(47.7%→53.8%)。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、地域活動離れが進んでいることがうかがえる。

(問 16 で「特になし」とお答えの方に)

問16-1 こうした活動に参加しない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

[%]

	全体 (487)	女性 (286)	男性 (191)
仕事が忙しいから	36.6	34.3	39.8
家事や育児・介護が忙しいから	13.6	16.1	9.9
家族の協力や理解が得られないから	1.8	2.1	1.6
ひとりでは参加しにくいから	18.3	18.2	17.3
活動や交流の場所がないから	12.9	14.3	11.0
人間関係がわずらわしいから	20.5	15.7	26.7
参加したい活動がないから	22.2	22.7	22.0
こうした活動には興味がないから	18.5	16.1	22.5
こうした活動に関する情報がないから	23.8	22.7	24.6
その他	10.5	12.2	7.9
無回答	0.0	0.0	0.0

「仕事が忙しいから」が 36.6%で最も高く、以下、「こうした活動に関する情報がないから」(23.8%)「参加したい活動がないから」(22.2%)「人間関係がわずらわしいから」(20.5%)の順で続いている。性別で見ると、女性では「家事や育児・介護が忙しいから」が 16.1%と、男性 9.9%を上回っている。

前回調査と大きな数値変化は見られなかった。

6 人権について

問17 あなたは、「人権が尊重されていない」と感じるのは、どのようなことについてでしょうか。(〇はいくつでも)

[%]

	全体	女性	男性
職場におけるセクシャル・ハラスメント (性的嫌がらせ)	56.6	58.0	54.9
パートナーや交際相手からの暴力	47.4	49.1	45.1
パートナーや交際相手からの 一方的なセックスの強要	41.4	44.8	36.3
つきまとい (ストーカー) 行為等	42.2	42.0	42.7
レイプ (強姦) などの 性暴力や痴漢などのわいせつ行為	56.2	55.9	57.0
売春・買春・援助交際・JKビジネス	35.9	37.6	33.1
女性の体の一部などを 内容と無関係に使用した広告	31.6	36.5	23.8
アダルトビデオ・インターネット等 メディアにおけるわいせつ情報や性の商品化	28.6	33.7	20.3
その他	5.8	5.6	5.8
特に感じない	13.5	11.3	16.9
わからない	10.7	10.7	10.8
無回答	0.0	0.0	0.0

「セクシャル・ハラスメント (性的いやがらせ)」が 56.6%で最も高く、「レイプ (強姦) などの性暴力や痴漢などのわいせつ行為」(56.2%)「パートナーや交際相手からの暴力」(47.4%)の順で続いている。前回調査と比較すると、全ての項目で6~20ポイント数値が上昇する結果となった。

[性・年代別]

上段：女性 [%]
下段：男性 [%]

	全体	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代
職場におけるセクシャル・ハラスメント (性的嫌がらせ)	58.0	52.9	46.2	64.4	47.4	61.2	63.5
	54.9	25.0	60.0	58.1	53.4	52.6	57.0
パートナーや交際相手からの暴力	49.1	29.4	41.0	52.1	50.0	54.4	46.6
	45.1	12.5	56.7	62.8	43.8	39.5	42.1
パートナーや交際相手からの 一方的なセックスの強要	44.8	29.4	41.0	52.1	43.9	50.3	39.9
	36.3	12.5	56.7	51.2	35.6	27.6	33.3
つきまとい (ストーカー) 行為等	42.0	52.9	43.6	46.6	35.1	51.0	37.2
	42.7	25.0	50.0	58.1	41.1	36.8	41.2
レイプ (強姦) などの 性暴力や痴漢などのわいせつ行為	55.9	47.1	51.3	60.3	52.6	57.8	56.1
	57.0	37.5	70.0	72.1	53.4	50.0	56.1
売春・買春・援助交際・JKビジネス	37.6	35.3	33.3	39.7	30.7	40.8	38.5
	33.1	37.5	36.7	39.5	24.7	28.9	37.7
女性の体の一部などを 内容と無関係に使用した広告	36.5	29.4	33.3	35.6	32.5	36.7	41.2
	23.8	12.5	30.0	37.2	16.4	19.7	25.4
アダルトビデオ・インターネット等 メディアにおけるわいせつ情報や 性の商品化	33.7	0.0	17.9	27.4	27.2	36.7	43.9
	20.3	12.5	3.3	20.9	11.0	22.4	29.8
その他	5.6	11.8	7.7	0.0	11.4	6.8	2.7
	5.8	12.5	6.7	7.0	5.5	6.6	4.4
特に感じない	11.3	23.5	25.6	13.7	15.8	7.5	6.1
	16.9	12.5	20.0	11.6	19.2	22.4	13.2
わからない	10.7	0.0	15.4	6.8	9.6	12.9	8.8
	10.8	25.0	6.7	4.7	15.1	10.5	10.5

女性の場合、30 歳代では「レイプ (強姦) などの性暴力や痴漢などのわいせつ行為」が 60.3%と、全年代中最も高く、「セクシャル・ハラスメント (性的いやがらせ)」も 64.4%と最も高くなっている。

男性の場合も、20, 30 歳代では「レイプ (強姦) などの性暴力や痴漢などのわいせつ行為」が 7 割以上と高くなっており、50 歳代、60 歳代では「アダルトビデオ・インターネット等メディアにおけるわいせつ情報や性の商品化」がそれぞれ 22.4%、29.8%と他の年代よりも高くなっている。

問 18 あなたは、「性的少数者（性的マイノリティ）」や「LGBT」という言葉について聞いたことがありますか。また、意味を知っていますか。（〇は1つ）

[%]

	全体	女性	男性
言葉も意味も知っている	80.0	79.5	80.5
言葉は聞いたことがあるが、 意味は知らない	14.7	16.1	13.1
言葉も意味も知らない	5.4	4.3	6.4

「言葉も意味も知っている」が8割と高い数値となっている。

[性・年代別]

上段：女性 [%]

下段：男性 [%]

	全体	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
言葉も意味も知っている	79.5	82.4	76.9	79.5	78.9	82.3	73.6
	80.5	75.0	90.0	86.0	76.7	77.6	80.7
言葉は聞いたことがあるが、 意味は知らない	16.1	11.8	17.9	13.7	17.5	13.6	18.2
	13.1	12.5	10.0	11.6	13.7	13.2	14.0
言葉も意味も知らない	4.3	5.9	5.1	4.1	3.5	4.1	4.7
	6.4	12.5	0.0	2.3	9.6	9.2	5.3

問 19 あなたは、性的少数者（性的マイノリティ）の方が、偏見や差別により、生活しづらい社会だと思いますか。（〇は1つ）

[%]

	全体	女性	男性
思う	37.2	37.5	37.5
どちらかと言えば思う	42.9	46.0	40.7
どちらかと言えば思わない	5.3	4.1	7.3
思わない	2.5	1.1	4.4
わからない	10.8	11.4	10.2

「思う（計）」という人は、男女共に 80.1%と高くなっている。

※性的少数者（性的マイノリティ）、LGBT：性的少数者（性的マイノリティ）とは、性別違和（「体の性」と「こころの性」が一致しない状態）や性的指向（恋愛対象の性別）が異性とは限らない人などのことを言います。LGBTは、性的少数者を表す言葉の1つで、Lesbian（レズビアン、女性同性愛者）、Gay（ゲイ、男性同性愛者）、Bisexual（バイセクシュアル、両性愛者）、Transgender（トランスジェンダー、身体の性と心の性が一致しない者）の頭文字をとった言葉です。また、最近では、Questioning（クエスチョニング、自身の性自認や性的指向が定まっていない又は決めない者、分からない者）の頭文字のQや、定義しきれない多様な性を表現する+（プラス）記号を加えて、LGBTQ+と表記されることもあります。

(問 19 で「思う」、「どちらかと言えば思う」とお答えの方にお伺いします。)

問 19-1 あなたは、性的少数者（性的マイノリティ）の方に対する偏見や差別をなくし、性的少数者（性的マイノリティ）の方が生活しやすくなるためにはどのような対策が必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

[%]

	全体	女性	男性
行政が市民等への周知啓発を行う	25.1	26.9	22.4
相談窓口等を充実させ、その存在を周知する	28.0	29.6	26.7
生徒や市民への対応を想定し、小中高の学校教員や行政職員への研修等を行う	42.1	45.0	38.4
法律等に、性的少数者（性的マイノリティ）の方への偏見や差別解消への取り組みを明記する	36.9	37.2	37.5
当事者や支援団体、行政等を交えた連絡、意見交換を行う	22.3	23.1	21.5
働きやすい職場環境づくりの取り組みをする	46.6	50.9	40.4
その他	7.0	6.7	7.3
わからない	6.6	6.1	7.3

「働きやすい職場環境づくりの取り組みをする」が 46.6%で最も高く、「生徒や市民への対応を想定し、小中高の学校教員や行政職員への研修等を行う」（42.1%）が続いている。

問 20 あなたは、これまでに、あなたのパートナー（事実婚や別居中、離別・死別を含む）または恋人などから、次のようなことをされたことがありますか。それぞれの項目ごとに1～3の中からあてはまるものを選んでください。

[%]

	経験がある（計）		まったく ない	無回答	経験が ある （計）
	何度も あった	1,2度 あった			
大声でどなられる	13.8	20.6	61.9	3.6	34.4
「だれのおかげで生活できるんだ」 とか「かいしょうなし」などと言われる	5.5	10.2	81.5	2.9	15.7
交友関係や行き先、電話やメールなどを 必要以上に、細かく監視されたり、 連絡を制限される	5.3	7.6	83.9	3.2	12.9
家計に必要な生活費を渡してくれない	5.0	4.0	87.7	3.3	9.0
何を言っても長時間、無視され続ける	5.1	10.3	81.2	3.4	15.4
あなたは見たくないのに、ポルノビデオ やポルノ雑誌を見せられる	0.6	1.9	94.4	3.2	2.5
あなたがいやがっているのに、 性的な行為を強要される	4.1	6.1	86.4	3.4	10.2
なぐるふりや、 刃物でおどされる	2.0	3.4	91.4	3.2	5.4
平手でうつ、なぐる、足でけるなどの 暴行を受ける	2.4	6.6	87.7	3.2	9.0
子どもの前で 暴力をふるわれる	1.4	2.8	91.7	4.1	4.2
その他	1.8	0.2	0.0	98.0	2.0

上記内容の経験の有無について、「経験がある（計）」の多い順にみると、「大声でどなられる」が34.4%で最も多く、以下、「『だれのおかげで生活できるんだ』とか『かいしょうなし』などと言われる」（15.7%）、「何を言っても長時間、無視され続ける」（15.4%）の順で続いている。前回調査と比較しても数値は変わらず、ほぼ横ばいとなっている。

【性別】

上段：女性 [%]
下段：男性 [%]

	経験がある（計）		まったく ない	無回答	経験が ある （計）
	何度も あった	1,2度 あった			
大声でどなられる	15.4 11.0	23.7 16.6	57.8 69.5	3.1 2.9	39.1 17.6
「だれのおかげで生活できるんだ」 とか「かいしょうなし」などと言われる	7.8 1.5	11.9 8.1	78.0 88.4	2.4 2.0	19.7 9.6
交友関係や行き先、電話やメールなどを 必要以上に、細かく監視されたり、 連絡を制限される	6.3 3.2	8.9 6.1	81.9 88.7	3.0 2.0	15.2 9.3
家計に必要な生活費を渡してくれない	7.0 1.5	5.6 4.0	84.3 87.7	3.1 3.3	12.6 5.5
何を言っても長時間、無視され続ける	5.6 4.1	10.6 10.2	80.9 83.4	3.0 2.3	16.2 14.3
あなたは見たくないのに、ポルノビデオ やポルノ雑誌を見せられる	0.7 0.0	3.1 0.0	93.3 97.7	2.8 2.3	3.8 0.0
あなたがいやがっているのに、 性的な行為を強要される	6.3 0.6	9.1 1.2	81.3 96.2	2.0 2.0	15.4 1.8
なぐるふりや、 刃物でおどされる	2.4 1.2	4.1 2.3	90.7 94.2	2.8 2.3	6.4 3.5
平手でうつ、なぐる、足でけるなどの 暴行を受ける	2.8 1.5	8.3 4.1	85.7 92.7	3.1 1.7	11.1 5.6
子どもの前で 暴力をふるわれる	1.9 0.9	3.7 1.2	90.9 94.8	3.5 3.2	5.6 2.1
その他	2.4 0.9	0.2 0.3	0.0 0.0	97.4 98.8	2.6 1.2

性別で見ると、女性では「大声でどなられる」について、「経験がある（計）」が39.1%を占めており、そのうちの15.4%が「何度もあった」と回答している。

全体を見ても、「経験がある（計）」の内の一定数は「何度もあった」と回答していることから、1度あった行為が、何度も繰り返されている現状が読み取れる。

(問20で「何度もあった」か「1、2度あった」に1つでも○があった方に)

問 20-1 そのことを、誰かに相談しましたか。(○は1つ)

[%]

	全体 (349)	女性 (240)	男性 (106)
相談した	17.2	22.5	5.7
相談したかったが、相談しなかった	11.2	13.8	5.7
相談しようと思わなかった	64.5	57.1	81.1
どうしていいかわからなかった	7.2	6.7	7.5
相談しなかった (計)	82.9	77.6	94.3

「相談した」は全体で17.2%である。一方、「相談しなかった (計)」は82.9%と高く、抱え込んでいる人が多いことが読み取れる。それは男性により顕著であり、94.3%が相談していない現状である。

前回調査と比較すると「相談しなかった (計)」は (全体：69.0%→82.9%、女性：62.9%→77.6%、男性：79.2%→94.3%) となっている。

[性・年代別]

上段：女性 [%]

下段：男性 [%]

(n= 349)	全体	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代
相談した	22.5	33.3	33.3	21.4	22.2	26.0	17.5
	5.7	0.0	20.0	7.7	0.0	7.1	5.6
相談したかったが、 相談しなかった	13.8	67.7	0.0	10.7	15.9	10.4	15.9
	5.7	0.0	0.0	7.7	8.7	3.6	5.6
相談しようと思わなかった	57.1	0.0	50.0	50.0	60.3	58.4	58.7
	81.1	100	60.0	84.6	73.9	85.7	83.3
どうしていいかわからなかった	6.7	0.0	16.7	17.9	1.6	5.2	7.9
	7.5	0.0	20.0	0.0	17.4	3.6	5.6
相談しなかった (計)	77.6	67.7	66.7	78.6	77.8	74.0	82.5
	94.3	100	80.0	92.3	100	92.9	94.4

(問20—1で「相談した」とお答えの方に)

問 20—1—1 実際に、誰(どこ)に相談しましたか。(〇はいくつでも)

[%]

	全体 (60)	女性 (54)	男性 (6)
親族	56.7	55.6	66.7
役所の相談窓口・電話相談など	20.0	22.2	0.0
友人、知人	56.7	57.4	50.0
医師、カウンセラー	8.3	9.3	0.0
家庭裁判所、弁護士など	15.0	14.8	16.7
民生委員、人権擁護委員等	1.7	1.9	0.0
警察署	6.7	7.4	0.0
その他	1.7	1.9	0.0

「親族」(56.7%)と「友人・知人」(56.7%)の身近な人に集中している。
性別でみると、女性では「友人・知人」(57.4%)、男性では「親族」(66.7%)が最も多くなっている。

(問20-1で「相談しなかったが～」か「相談しよう～」とお答えの方に)

問20-1-2 「誰(どこ)にも相談しなかった」のは、なぜですか。(〇はいくつでも)

[%]

	全体 (264)	女性 (170)	男性 (92)
誰(どこ)に相談してよいか、わからなかった	5.7	7.1	3.3
相談する人がいなかった	9.1	10.6	6.5
恥ずかしくて誰にもいえなかった	9.8	11.2	7.9
相談しても無駄だと思った	27.7	31.2	20.7
相談したことがわかると、 自分や子どもに危害が及ぶと思った	3.0	3.5	2.2
自分さえ我慢すれば、 このままやっていけると思った	15.2	14.7	16.3
他人に迷惑をかけたくなかった	10.2	10.0	10.9
自分にも落ち度があると思った	26.9	21.2	38.0
相談するほどのことではないと思った	53.4	50.0	58.7
その他	9.1	9.4	7.6

「相談するほどのことではないと思った」が53.4%で最も高く、以下、「相談しても無駄だと思った」(27.7%)、「自分にも落ち度があると思った」(26.9%)の順で続いている。

問21 あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV）の防止および被害者支援のために、どのような対策が重要だと思いますか。（〇はいくつでも）

[%]

	全体	女性	男性
家庭内や恋人間でも暴力は犯罪であるという意識の啓発	68.3	73.1	62.5
いざというときに駆け込める緊急避難場所（シェルター）の整備	68.3	71.7	65.1
緊急時の相談体制の充実	62.1	63.1	63.4
住居や就労の斡旋、経済的援助など、自立して生活するための支援策の充実	52.1	57.4	45.1
カウンセリングや日常的な相談など、精神的に自立するための支援策の充実	47.1	51.5	42.2
関係機関の紹介や暴力への対応方法など、DVに関するいろいろな知識の提供	37.3	39.3	35.2
離婚訴訟への支援や養育費の請求など、法的なサポートの充実	48.7	52.0	44.2
カウンセリングなど、加害者の更生に関する対応の充実	32.6	36.1	27.9
家庭や学校において、子どもに対し暴力がいけない事だと教える	51.2	55.4	46.2
身近でパートナーによる暴力に気付いたら、周囲の人が通報することが大切である、という意識づくり	40.8	43.1	39.0
その他	3.6	3.1	4.1
わからない	3.5	1.9	6.1

「家庭内や恋人間でも暴力は犯罪であるという意識の啓発」と「いざというときに駆け込める緊急避難場所（シェルター）の整備」が68.3%と最も高く、以下、「緊急時の相談体制の充実」（62.1%）の順で続いている。この3項目に関しては、前回調査でも高い項目だった。

※ドメスティック・バイオレンス（DV）：パートナー（事実上婚姻関係と同様の事情にある者を含む）またはパートナーであった者から振るわれる暴力。

[性・年代別]

上段：女性 [%]
下段：男性 [%]

	全体	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代
家庭内や恋人間でも暴力は犯罪である という意識の啓発	73.1 62.5	58.8 37.5	66.7 70.0	69.9 60.5	71.9 56.2	76.2 64.5	76.4 65.8
いざというときに駆け込める 緊急避難場所（シェルター）の整備	71.7 65.1	52.9 25.0	76.9 76.7	80.8 67.4	70.2 58.9	70.1 67.1	71.6 66.7
緊急時の相談体制の充実	63.1 63.4	47.1 37.5	61.5 83.3	56.2 46.5	62.3 60.3	68.7 64.5	64.2 67.5
住居や就労の斡旋、経済的援助など、 自立して生活するための支援策の充実	57.4 45.1	52.9 37.5	53.8 56.7	57.5 37.2	53.5 45.2	63.9 42.1	55.4 47.4
カウンセリングや日常的な相談など、 精神的に自立するための支援策の充実	51.5 42.2	47.1 12.5	48.7 50.0	52.1 32.6	48.2 38.4	55.8 43.4	50.7 47.4
関係機関の紹介や暴力への対応方法など、 DV に関するいろいろな知識の提供	39.3 35.2	35.3 25.0	51.3 50.0	39.7 30.2	33.3 39.7	43.5 27.6	37.2 36.0
離婚訴訟への支援や養育費の請求など、法的 なサポートの充実	52.0 44.2	64.7 12.5	53.8 53.3	58.9 48.8	54.4 38.4	57.1 43.4	40.5 46.5
カウンセリングなど、 加害者の更生に関する対応の充実	36.1 27.9	35.3 25.0	41.0 40.0	34.2 23.3	38.6 24.7	36.1 27.6	34.5 28.9
家庭や学校において、 子どもに対し暴力がいけない事だと教える	55.4 46.2	35.3 37.5	51.3 66.7	56.2 39.5	61.4 45.2	53.7 40.8	55.4 48.2
身近でパートナーによる暴力に気付いたら、 周囲の人が通報することが大切である、 という意識づくり	43.1 39.0	41.2 37.5	66.7 56.7	41.1 48.8	40.4 35.6	46.9 35.5	37.2 35.1
その他	3.1 4.1	0.0 0.0	7.7 3.3	1.4 4.7	7.0 5.5	2.7 1.3	0.7 5.3
わからない	1.9 6.1	11.8 25.0	5.1 3.3	1.4 9.3	1.8 5.5	0.7 9.2	1.4 2.6

女性の場合、40 歳代、50 歳代、60 歳代で「家庭内や恋人間でも暴力は犯罪であるという意識の啓発」がそれぞれ 71.9%、76.2%、76.4%となっている。また、10 歳代以外では「いざというときに駆け込める緊急避難場所（シェルター）の整備」も 7 割以上となっている。

7 男女平等参画施策について

問22 PTA会長や自治会長、議会や審議会・委員会等の政治分野や方針を決定する過程において、女性の参画が少ないのはなぜだと思いますか。(〇はいくつでも)

[%]

	全体	女性	男性
男性が担うのが社会慣行だから	40.9	40.7	41.6
女性は家事・育児が忙しいから	41.2	44.3	38.7
家族の支援・協力が得られないから	28.0	30.6	24.7
指導力のある女性が少ないから	22.8	25.4	19.5
女性側の積極性が足りないから	26.9	26.5	28.8
女性がリーダーになることに抵抗があるから	25.2	27.0	21.8
その他	8.8	8.3	8.4
無回答	0.0	0.0	0.0

理由としては、「女性は家事・育児が忙しいから」が41.2%であり、「男性が担うのが社会慣行だから」(40.9%)とこの2項目が特に高くなっている。

[性・年代別]

上段：女性 [%]

下段：男性 [%]

	全体	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代
男性が担うのが社会慣行だから	40.7	64.7	46.2	30.1	44.7	40.1	39.9
	41.6	50.0	36.7	46.5	38.4	35.5	46.5
女性は家事・育児が忙しいから	44.3	29.4	59.0	45.2	47.4	37.4	45.9
	38.7	12.5	46.7	34.9	43.8	42.1	34.2
家族の支援・協力が得られないから	30.6	11.8	28.2	45.2	22.8	27.9	35.1
	24.7	25.0	13.3	30.2	19.2	27.6	27.2
指導力のある女性が少ないから	25.4	11.8	15.4	20.5	27.2	25.9	30.4
	19.5	0.0	30.0	11.6	21.9	21.1	18.4
女性側の積極性が足りないから	26.5	11.8	20.5	20.5	17.5	24.5	41.2
	28.8	12.5	26.7	11.6	19.2	31.6	41.2
女性がリーダーになることに抵抗があるから	27.0	23.5	28.2	34.2	21.2	29.9	25.0
	21.8	12.5	23.3	14.0	15.1	31.6	22.8
その他	8.3	5.9	12.8	8.2	12.3	7.5	5.4
	8.4	25.0	10.0	11.6	13.7	2.6	6.1
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

女性の場合、30 歳代で「家族の支援・協力が得られないから」が 45.2%。また、60 歳代で「女性側の積極性が足りないから」が 41.2%と、他の年代と比較すると差が大きい。

性別問わず、10 歳代で「男性が担うのが社会慣行だから」が 64.7%、50.0%と、他の年代より高くなっている。

問23 男女平等参画社会の実現のための推進事業や、団体・事業者の方々を支援するための拠点施設として、男女平等参画推進センター（レイクピアウスイ3階）を設置しています。あなたは、男女平等参画推進センターの施設や講座などを利用していますか。（〇は1つ）

[%]

		全体	女性	男性
利用している（計）	よく利用している	0.1	0.0	0.0
	利用したことがある	2.8	3.9	1.2
利用したことがない（計）	知っているが、利用したことはない	25.4	29.4	20.6
	知らない	64.2	59.4	72.7
知らないが、今後利用してみたい		5.2	5.4	4.9
その他		0.4	0.4	0.0
利用している（計）		3.9	3.9	1.2
利用したことがない（計）		94.8	94.2	98.2

※男女平等参画推進センター（ミウズ）とは

男女が社会の対等な構成員として、あらゆる分野における活動に共に参画する社会を形成するための活動拠点です。男女平等参画推進のための啓発、講座・講演会等の開催や、図書の貸出等の情報提供、女性のための相談の実施、学習室の貸出などを行っています。

問24 男女平等参画社会づくりを進めるために、佐倉市にどのような施策を期待しますか。

(〇はいくつでも)

[%]

	全体	女性	男性
市の審議会や委員会など、市の政策方針決定の場へ女性登用の推進	39.1	39.4	40.1
各種団体などの女性リーダーの養成	32.0	29.4	37.2
幼児教育や学校教育において、男女平等意識の育成	49.6	54.4	43.9
男女平等に関する法律や制度について情報提供の充実	30.2	32.4	28.2
ボランティア活動・NPO活動の充実	14.3	13.0	16.9
仕事と家庭、地域活動、趣味・娯楽などの両立支援	42.8	44.4	42.2
女性の再就職・起業など自立支援のための教育・学習機会の充実	43.9	47.8	40.4
男性の家事・育児・介護などへの参加促進にむけた情報提供や学習機会の充実	37.7	41.5	33.1
子育てをしやすい環境整備	62.4	66.3	59.0
高齢者・障害者の介護に関する情報提供	31.9	34.6	28.8
職場における、男女の均等な取扱についての周知徹底	29.5	30.7	28.2
自営業や家族従業者（農業を含む）へのワーク・ライフ・バランスの啓発	17.9	18.3	17.4
市職員の男女平等意識の推進	24.0	24.3	24.1
性教育・性に関する学習機会の充実	23.6	24.8	22.4
健康診断・生活習慣病予防など健康管理対策の充実	19.8	20.4	19.8
パートナーに対する暴力の防止対策の充実	21.5	21.1	23.0
男女平等参画の視点からの防災対策	12.4	12.4	11.9
女性からの相談体制の強化	22.3	22.4	23.0
男性からの相談体制の整備	17.2	16.3	18.9
男女平等参画推進センターの充実	14.0	13.1	15.7
その他	2.1	1.9	2.3
特になし	6.1	4.1	9.6

「子育てをしやすい環境整備」が62.4%と、他の施策と比較し非常に高くなっている。以下、「幼児教育や学校教育において、男女平等意識の育成」(49.6%)、「女性の再就職・起業など自立支援のための教育・学習機会の充実」(43.9%)の順に高くなっている。

前回調査と比べると、「女性の再就職・起業など自立支援のための教育・学習機会の充実」が32.6%→43.9%と大きな上昇となった。

[性・年代別]

上段：女性 [%]

下段：男性 [%]

	全体	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代
市の審議会や委員会など、 市の政策方針決定の場へ女性登用の推進	39.4	29.4	35.9	35.6	36.8	38.1	47.3
	40.1	50.0	33.3	37.2	34.2	34.2	50.0
各種団体などの女性リーダーの養成	29.4	11.8	33.3	30.1	25.4	29.3	33.8
	37.2	37.5	30.0	30.2	27.4	34.2	50.0
幼児教育や学校教育において、 男女平等意識の育成	54.4	52.9	53.8	54.8	49.1	58.5	54.7
	43.9	50.0	63.3	41.9	45.2	34.2	44.7
男女平等に関する法律や 制度について情報提供の充実	32.4	23.5	41.0	34.2	25.4	32.0	36.5
	28.2	12.5	33.3	23.3	30.1	22.4	32.5
ボランティア活動・NPO活動の充実	13.0	23.5	7.7	13.7	12.3	8.8	17.6
	16.9	12.5	26.7	11.6	11.0	18.4	19.3
仕事と家庭、地域活動、 趣味・娯楽などの両立支援	44.4	52.9	64.8	64.4	43.0	37.4	36.5
	42.2	37.5	76.7	53.5	41.1	38.2	32.5
女性の再就職・起業など 自立支援のための教育・学習機会の充実	47.8	52.9	71.8	47.9	49.1	49.0	39.2
	40.4	37.5	53.3	51.2	32.9	36.8	40.4
男性の家事・育児・介護などへの 参加促進にむけた情報提供や学習機会の充実	41.5	35.3	51.3	41.1	41.2	38.1	43.2
	33.1	37.5	60.0	32.6	28.8	25.0	34.2
子育てをしやすい環境整備	66.3	82.4	76.9	71.2	64.9	59.9	66.9
	59.0	50.0	73.3	72.1	54.8	56.6	55.3
高齢者・障害者の介護に関する情報提供	34.6	29.4	25.6	30.1	23.7	42.2	40.5
	28.8	12.5	36.7	23.3	26.0	27.6	32.5
職場における、 男女の均等な取扱についての周知徹底	30.7	29.4	30.8	27.4	28.1	31.3	34.5
	28.2	25.0	33.3	30.2	24.7	27.6	28.9
自営業や家族従業者（農業を含む）への ワーク・ライフ・バランスの啓発	18.3	17.6	30.8	24.7	21.1	12.9	15.5
	17.4	25.0	20.0	18.6	12.3	19.7	17.5
市職員の男女平等意識の推進	24.3	23.5	25.6	23.3	24.6	21.8	26.4
	24.1	25.0	36.7	20.9	19.2	18.4	28.9
性教育・性に関する学習機会の充実	24.8	41.2	30.8	35.6	25.4	23.1	17.6
	22.4	50.0	46.7	25.6	19.2	14.5	20.2
健康診断・生活習慣病予防など 健康管理対策の充実	20.4	11.8	30.8	20.5	19.3	22.4	16.9
	19.8	25.0	36.7	18.6	15.1	18.4	19.3
パートナーに対する暴力の防止対策の充実	21.1	29.4	33.3	21.9	25.4	18.4	16.2
	23.0	37.5	33.3	20.9	21.9	19.7	22.8
男女平等参画の視点からの防災対策	12.4	11.8	20.5	16.4	13.2	10.2	10.1
	11.9	12.5	13.3	9.3	9.6	10.5	14.9
女性からの相談体制の強化	22.4	35.3	35.9	26.0	26.3	18.4	16.9
	23.0	37.5	43.3	16.3	16.4	18.4	26.3
男性からの相談体制の整備	16.3	35.3	35.9	20.5	20.2	11.6	8.8
	18.9	37.5	36.7	18.6	20.5	11.8	16.7
男女平等参画推進センターの充実	13.1	23.5	12.8	12.3	14.9	13.6	10.8
	15.7	0.0	26.7	4.7	9.6	17.1	21.1
その他	1.9	0.0	2.6	0.0	4.4	1.4	1.4
	2.3	0.0	0.0	2.3	5.5	1.3	1.8
特になし	4.1	0.0	2.6	8.2	6.1	3.4	2.0
	9.6	12.5	6.7	9.3	6.8	17.1	7.0

女性の場合、10 歳代、20 歳代、30 歳代で「子育てをしやすい環境整備」がそれぞれ 82.4%、76.9%、71.2%と、他の年代よりも高くなっている。一方、50 歳代、60 歳代で、「高齢者・障害者の介護に関する情報提供」が、それぞれ 42.2%、40.5%と他の年代よりも高くなっている。

前回同様、本人にかかわる項目において回答が多い傾向にあった。どの年代にとっても男女平等な社会の形成には、幅広い分野からのアプローチが必要である。

Ⅲ 自由記入

F5 男女平等参画社会についてのご意見・ご要望などございましたら、ご自由にお書きください。

男女平等参画社会についての意見や要望を聞いたところ、女性 84 名、男性 62 名
 どちらともいえない 3 名、無回答、1 名の回答がありました。

■男性

「女性だから男性に劣後して当然」という考え方は問題だと思いますが、実力が伴っているかを吟味せずに女性を登用することも正しく無いのでは。女性登用は正当な評価に基づいて行われれば良く、その人数を満たす女性は潤沢におられると思います。勿論、一定の割合を越えないと意見が無視されるということは理解出来ますので、「選定にも公平の観点が必要」という事を申し上げます。

「男女平等参画」と言ってもばくぜんとしている。女性加われよいこともあるが男性も加われないこともある。市は、個人個人の意見、アンケート受け入れ易いようにすること。

- ・職場は、その人がいなければ仕事に支障が出る。
- ・介護や子育てで休まなければいけない。
- ・休みが多いと仕事にならないので、休まない人を積極的に採用、雇用する。
- ・働かないと生活費が無くなり生活できなくなるので、仕事を頑張ってしまう。
- ・その人がいなくても仕事が普通に回せる環境なら良いが、企業も利益を出すために余分な人員は確保できないので難しい。本当に完全に男女、シングル関係なく子育て介護に着手できるようにするのは、社会システム上難しいと感じている、

- ・男女平等を既存の形態で考えないで、女性を分けて活躍を求める組織にする。それから一緒に体制にすればよい。女性追加では占有率が上がらない。
- ・差別とかDVは犯罪にあたるものは聞いてどうするの警察？同類を色々ところで研究することが大事なの？やるべき部署が集中してやるではダメ？受け身の警察の問題では？

18 才以上と言わず、中高生であっても意見を聞く機会を設けるべきです。今回の調査のように。

Q12-1、13 の育児休業についての問いは、子どもがいないのでどう答えていいかわからなかった。

アンケート結果や今回のアンケートで実施する施策、定期的な進捗を広報で知らせてほしい。

サービスの一環としてレディースデイが多くあるのに、メンズデイみたいなものが無いと思う。痴漢冤罪とかに恐怖を感じている人もいるだろうから、平等からの観点で男性専用車両も試験的運用してみてもどうだろうか？

そもそも男性女性からそれぞれ不満が出ているのか（問題にしなればならないような相談）わからない。個性を尊重すればいいと思うが男が女がそこにポイントをしばって問題視するのはどうかと思う。

なんでも男女平等に違和感があります。男だから女だからではなく、性別に関係なく個人を大切にすることが必要だと思います。また男女平等＝なんでも一緒に考えてみる方もいますが、男女それぞれが幸せになる事が大事で法整備やルールでひとくくりを決めても、本来の意味から大きく外れると考えます。深い議論に期待いたします。

<p>仮に意識調査としても、設問の偏りが大きく、答える意味がないと途中から感じる。 平等を謳うのが大切ではない 一人ひとりの生き方の考えは一人ひとりの創造によりなされるもので、平等が大事ではない。 どんなに不平等と感じられることも本人の考えが良い方向であればそれも一つの正解。 ただし犯罪行為に抵触するものは厳罰に処置すべきである。</p>
<p>回答の選択数を限った方がよかったですと思いました。</p>
<p>啓蒙活動よりも具体的対策を講じた方が良いと思います。このアンケートは男が加害者、女が被害者という考えが根底にあると感じました。男女平等参画社会は男性の意識を変えると同時に女性が社会進出にに対する積極性を持つことが重要だと思います。</p>
<p>広報で知らせて下さい。</p>
<p>広報等で知らせてほしいです。</p>
<p>根本的に平等なんてありえないので、個人の思いやりがすべてだと思う。</p>
<p>佐倉市だけの問題ではない。平等といっているが、世の中、高齢者又は女性に優遇するようになっている。</p>
<p>佐倉市作成の本アンケート自体が「そもそも平等といい難い質問となっている。」だれが発案しいくらの費用をかけて、また検証して調査を行っているのか？市民部には、まったく調査能力がなく、調査以前の税金の無駄遣い以外の何ものでもない。女性の登用、優遇などをあえて発言する事は逆差別となる。 平等参画とバイオレンスは、まったく異なった案件で行政がわざわざ仕事を行っている体でアンケートを膨大な費用を掛けて行なう事は、ナンセンス。 そもそも佐倉市自体の改善等を役所内で調査すべき。市議員もどのように対応しているのか疑問。以上。</p>
<p>佐倉市市議会に女性を半分入れてから、市民に聞いてください。 質問項目が多すぎます。</p>
<p>仕事の平等性の重要性は大事だと感じるが、体力や性質に違いの事実を無視した平等強化に違和感を感じる。また、フィンランドの様な社会でもない限り、男性の育児、介護休暇を重視することは難しい気がする（税金制度等の問題）。女性の平等を訴える方は、感情的な人間が多いが、そんな方が上司になっても職場の機能が上がるとも考えられない。実務経験による意見として。</p>
<p>子育てしやすい環境、経済面補償、学校制度をいち早く法制、条例化して下さい</p>
<p>子育て支援は女性自立に不可欠であるが、佐倉市の具体的政策と成果が全く見えない。流山市のようなわかりやすく見える政治を行って欲しい。また若い世代と高齢化世代とが自然に自由に交流できる環境があると社会が活性化できるかもしれない。西田市長が何をやっているのか、何を理想として佐倉市に実現させているのかよくわからない。市民の声をきいて市民のための政治をやっているとは思えない。旧統一教会との関係があるような市長はカキウテキスマヤカにおやめになるか市民に向かってわかりやすくていねいに説明すべし。公費を使った説明！！有権者のことを選挙の時しか考えていない訳ではないでしょう。市民を馬鹿にしないでください。何も言えない佐倉市の役人の方々は恥を知るべきだ！</p>
<p>市で行うのが難しければ、民間企業を手を組むのも良いと思います。私の会社にも「企業版ふるさと納税」のはがきがよくきますし、そういったものを活用してみたいかがでしょうか。</p>

<p>市の一般職員、管理職の男女比がどうなっているのか教えてほしい。</p>
<p>自称、保守の高齢男性が議員を続けていると男女平等参画なんて、いつまでたっても言葉だけでは？議員定数を減らして、定年を設けて余計な連中を意見決定から排除してほしい。</p>
<p>自分が何も分かっていないからかも知らないが、「平等」と口だけで国会や霞ヶ関の官僚を見れば分かるように明らかな男性優位。私利私欲を貪るあのじーさん達をどうにかしない限り夢も希望もない国。こんな長いアンケート作って、市民に寄り添うとしている現場は大変ですね。ご苦労様です。本当に長い時間掛けて回答しました。私の他、回答された全ての方のこの時間が無駄にならないよう行政に反映していただきたい。宜しくお願い致します。</p>
<p>実態調査の結果などがほしい</p>
<p>女性が社会進出するには制度の見直し、支援、そして男性の理解と協力が必要である。</p>
<p>女性しか子供を産めないといった男女の違いをもっと明確にして、平等となるべき、平等とすべきポイントを明確にした上で、推進すべき。 単に平等と言っても違いはでる。</p>
<p>女性の雇用や就労に対して、一時的にせよインセンティブをもたせるしか変化は望めないのではないか。就労人口を確保するには、女性を雇用した方が有利な社会構造を積極的に模索すべき。再就労や育児との両立を促進し、変化の多い女性の人生に沿った社会構造を追求することは、障害や高齢などの社会的弱者の社会参画を許容する優しい社会の実現へと道を同じくすると考える。</p>
<p>小、中学校等と連携した、早期からの教育が大事ではないかと思います。</p>
<p>小・中・高の教育が最も大事だと思います。</p>
<p>小中学校における保護者が参加するイベントを少なくした方が、女性はもっと働きやすいのではないですか？</p>
<p>人が人として接して、あまり強く男女平等を過剰に意識しすぎない、自然、ありのまま！</p>
<p>人権に関する意識が、日本は低い。日本の社会は何でも自分でやれとの風潮が強すぎ、困っている人を助ける仕組みがぜい弱だと思う。犯罪に関しても、容疑者の人権が守られ、被害者の人権保護が遅れている。これで人権を守るというのは、現実的でない。海外に優れた事例がないなら、日本国民が自分で、日本に合った人権保護の啓発を作るべきだ。全ての国民の人権が守られるよう、国民が意識すべきだし、女性が就職や家事で負担がのしかからないよう、手を打つべきだ。佐倉市役所で、このようなアンケートを取ることは有意義だと思う。アンケートで終わりではなく、実際の市民の人権保護に繋げていただきたい。</p>
<p>生きている日常で身近な男女平等がなんなのかよくわかりません。結局、性、暴力、収入ぐらしかイメージがつかないので万人受けするシンプルな内容じゃないとなかなか広まらないのでは？</p>

<p>西田市長と統一教会のつながりがあった。今後はしない。という口約束は信用できない。自ら責任を感じ、市長を辞めるべきだと思う。</p>
<p>税金のムダなので調査に回すお金を他に回してほしい。書類不備が原因で使えなくなったコロナ助成金の調査はどうなったのか。市〇？は優先順位を間違えているので近くの人がちゃんと指導してほしい。</p>
<p>体制を作っても人の意識が変わらないと意味がありません。地道な取り組みが必要と考えます。</p>
<p>大人から子供まで、理解できるようなPRをお願いします。</p>
<p>男女平等というと、「今の社会では男性が優遇・女性が冷遇されておりその差を是正する必要がある」という文脈で語られがちで、本調査の質問からもそのような意識を感じたが、それでは男性の協力を得ることは難しいと思う。</p>
<p>男女平等に関してはいつも机上の空論だと思っています。差別は問題ですが、区別は大切です。例えば看護師に男性が増えると力作業には有利ですが、多くの女性患者は嫌がるでしょう。女性の下着売り場に男性店員が増えれば客が減るでしょう。警察や自衛官にも女性が増えれば犯罪者を取り押さえられないかもしれません。平等がひとり歩きしすぎてどのような仕事も男女平等というならそれは角を矯めて牛を殺すことにもなりかねません。上っ面だけの平等思想を植え付けるのであればそれは危険です。また世の中がLGBTばかりになると人口は減るのです。今回は関係ありませんが、少子高齢化もやや議論が空転しているように思われます。経済や女性の社会進出にあたってのサポートばかりが問題視されていますが、根本は恋愛事情もあるかと思われます。戦前はお見合いが多く、そこからスタートでした。戦後は自由恋愛が主流となり、婚前交渉が圧倒的です。今後はそれがレスに直結している部分も大きいと思います。佐倉市には上っ面だけの政策に陥らないことを期待しています。</p>
<p>男女平等のアンケートなら選択肢をもっと平等なものにしてほしい。 意図した解答を求められているように感じた。</p>
<p>男女平等は、機会の平等には賛成だが、数合わせの女性登用は女性の為にもならず無意味である。過度なマイノリティの意見(LGBTなど)を採用して、従来の日本の風習を否定する活動は、日本文化の破壊行為であり、日本崩壊に繋がる反日活動である。 配偶者、子供に対する暴力行為は絶対に取り締まるべき。 一色単に男女平等参画社会に含めることには疑問だが、必要なところには費用を掛け、不必要なノイジーマイノリティへの配慮及び予算を振り分けるなら、治安、防衛に費用を振り分けるべきである。 佐倉市は正常な判断を元に、正しい活動を進めて頂き、佐倉市民が安全に充実した生活を送れることを望みます。</p>
<p>男女平等は100%むり。男女、人それぞれ向き不向きがある。男女平等の言葉、考えること自体、平等ではなくなっている。仕事も大変、家事も大変、子育て、介護も大変。感じ方は人それぞれの為、どれが一番なんてきめることはできない。男女問わず人に対し思いやる気持ちが大事。男女平等であるならばレディース DAY などなくしたほうがいいのか？</p>
<p>男女平等参画という社会の方向は大切だが、それは現代という時代の価値観であり、過去の社会が良くなかったというものでは無い。そもそも女性の職場が少なかったことに起因するもので、コンピューターやデスクワーク、芸能などが広く発達した現代では、女性の可能性が増えたということだと思われる。</p>

<p>男女平等参画についてはお互いの気持ち大切！！思いやりのある関係の構築が大事である。</p>
<p>男女平等参画についても、もっと広報で知らせてほしい。</p>
<p>男女平等参画の市の取り組みや姿勢が実感として伝わってこない。がんばって（工夫して）ほしい。</p>
<p>男女平等参画社会についての佐倉市での活動をうまく PR して活動して欲しい。</p>
<p>男女平等参画社会の実現には、教育が最も重要。 ただ単に男女平等と言うのではなく、その性差から来る必然的な性格、行動・志向の側面での違いなど、想像するのが難しい異性に特有な部分をしっかりと教え、そこに思いが至るようにできるレベルの教育。 伝統、習慣となっている部分も多いので、そこを指摘するのも大切。子供が親を説得する必要がある場面も出てくるはずで、そういう場も想定した大人を納得させることができる内容の教育になっていることが重要。 大人の意識を変えるのには限界があるため、社会を変えるには、小さい頃からの人権教育の長年にわたる積み上げが必要となってくる。</p>
<p>男女平等参画社会を目指す・・・全国どこでも同じことをやっている。 アンケートでは新たな発想は生まれませんと思います。 御担当自身が「世界で一番の男女平等参画社会」をつくりあげるぐらいの斬新な施策を試行し、男女平等参画社会のリーダーになってほかの市町村から注目されるぐらいの市に！！</p>
<p>男女平等参画推進センターの活動内容を知らなかったなので、広報で知らせてください。</p>
<p>男性、女性に関わらず社会に参加しやすい社会になってほしい。</p>
<p>男性が優遇されていると思われがちですが、女性が優遇されているものもあると思います。</p>
<p>同様のアンケートを今後も続けてほしい。</p>
<p>日本はもともと男尊女卑が文化の様な国。海外なみに男女平等と言える社会になるには、現実的にあと 30～50 年くらいかかると考えている。</p>
<p>非常に重要なテーマだと思います。積極的な取り組みを期待します。</p>
<p>平等って何ですか？平等の押しつけは良くないと思う。</p>

本気で男女平等を推進したら、女性から不平等とクレームが上がるだろう。それだけ女性は優位にある。女性が社会進出を加速させてことにより、少子化が加速した。もっともすでに女性人口の半数以上が50歳以上とこの国も終わっている。少子化に歯止めはかからず日本はなくなる。

本調査の質問内容を見ていて、難しいかもしれないが内容がワンパターン。回答もおのずと、決まりきってこないか。私は60代で昼は家内と2人であることが多いが（年金生活で）これまでの生活を送るまでに、男性が現役で働いている間から、どうやって夫婦助けあっていくかを考えていけるかになる。そのためには、市、国が本気にならないと解決はほど遠いのでは。

<p>■女性</p>
<p>身近でこのような話をする事もなく、自身の廻りがご近所においても、平和な感じがあったので、今回改めて考えるきっかけとなった</p>
<p>個人が尊重される社会づくりをめざすことで男女も平等に。の意識が持てる</p>
<p>男女平等参画社会についてのセミナーや市民の声など、市民の人が男女平等参画社会について意見・要望等ディスカッションなどする機会があってもいいのかな？と思う。(難しいかもしれないが) 男女平等に対しての体験談などを広報でお知らせしてもいいのかな？と思う。</p>
<p>今回のような意識調査は大変意義のあることだと思います。 自分とは立場の違う人たちのことについても考える機会になりました。 このような機会を年に1回くらい持てると「またがんばろう」と前向きな気持ちになれます。 このたびは素晴らしい機会を与えて下さってありがとうございました。そして 市民の声に耳を傾けて下さってありがとうございました。</p>
<p>男女平等というよりも1人1人の個性を尊重できる社会。 皆が自分のできることを自分の役割として生きていける社会を目指せばいいと思います。</p>
<p>”男女平等”とても大切な課題だけれども、少し過剰な気がしてなりません。”そんな事まで？”と”平等”とても難しい問題ですが、すべて平等... それで良いのか？とも感じます。</p>
<p>案件によって相談する場所が違うと思うが、どこに相談して良いかがわからない。広報等で一年で1回でも良いので知らせてほしい。(一覧を)</p>
<p>ホームページだけでなく、SNSでも知らせてほしい。イベント情報など。Twitter見ってます。</p>
<p>性的マイノリティの婚姻制度や、異性間も含めたパートナーシップのご検討をよろしくお願いします。</p>
<p>早く男女平等の世界になればいいと思う。今は毎日が辛い。もっと相談できる場所があるとうれしい。</p>
<p>●男性の家庭参加、女性の社会進出の為、長時間労働を無くさなければならないという風潮を作り出していた だきたい。そうすれば出生率も上がるはず。フランスのように1~2才から保育施設に皆希望すれば入れたり、 使用済みオムツを自宅に持ち帰るのではなく保育施設が処分することを当たり前にしつてほしい。 ●PTAや父母会の女性比率が高い。男性と同じように働いていてもPTA活動に参加しなければならない空気(同調圧力)があり辛い。話がズレてしましますが、学校に十分な予算がなくPTA会費から捻出しています。本来なら公立の小中学校の学校運営にかかわる費用は佐倉市が出さなければならないのではないですか。教育に十分な予算を割り振っていただきたいです。市内の全小中学校にアンケートを取り教育現場の声を反映しより良い佐倉市になることを願っています。成田市に比べて英語教育が遅れていると塾の先生に言われましたので今一度見直し検討のほどお願いいたします。</p>
<p>男女平等はとても素晴らしく頑張りたい女性にはうれしいと思います。ただ、それが当たり前になりすべての女性が正社員を目指すようになると祖父母の同居がない中で子供達(とくに0~2才)に負担がかかるのではないかと心配です。体力がありこなせる人は良いと思いますが。保育園の充実や会社側の理解も深めていく必要があると思います(子を持たず働く人に降りかかる負担も含め)。増やすだけでなく保育士が余裕を持てるよう給料を上げたり、小さい子を一人でたくさん見るなどの無理をさせない(実際は子供一人に二人くらいで丁度よいくらい大変だと思う)。あまりに多すぎる持ち帰りの仕事をさせないなど変えないと子供がかわいそうです。</p>

今まで男女平等参画についてあまり情報が入ってきていなかったのですが、(もしかしたらポストに入っていたりとかはあったかも?) もう少し詳しく知りたいと思いました。来年職場復帰を予定しているのですが、今の家庭状況ではとても平等とは言えず、私は休む場なく家事育児に追われています。主人に頼らずに復帰するにはどうしたらよいか悩んでいます。「ファミリーサポート」を知り、制度について料金、時間等をもう少し詳しく知りたいのですが、2歳の娘を連れて話を聞きに行っても騒いで話にならないので... もう少し詳しい情報を(使用している例、何時～何時利用、子供3名の場合の料金、お迎え有り→手段は車もあり?その際の料金)などを広報などにのせていただけるとありがたいと感じています。読みづらく長々と失礼しました。

女性パートの時給アップをすれば子育て時間や経済的に効果があると思います。女性の賃金アップの働きかけを是非して頂きたいです。

まだまだ女性は「家庭」を中心とした世の中。社会で活躍したくても家庭があるとなかなか出づらくなる。働く女性は会社でも保育園でもそう思いたくなくても肩身が狭いのが現実。

若者の男女平等参画を多く企画したら若者の生の声が聞けると思います。

結婚し、子供が生まれ、小学生くらいまでは母性があり、子育てに、母親は、子供にとって大事であり、男女平等でばりばり働くのは、家庭によって違いはありますが、大変忙しく時間に追われる日々です。仕事、家事、子育ての両立のむずかしさがあり、昨今の経済の値上げラッシュ等働かなければということもあり、男女平等参画社会の理想と現実のギャップが大きくむずかしいものです。

無知で申し訳ありませんが、この都度の書類にて”男女平等参画”を存じ上げました。出来ましたら広報の幅を広げて頂けたらと思いました。

女性が活動する場をふやす
男性側の女性への意識を改革する(女性へのサポート支援をする)

議員の数の女性の割合を、もっと増やして頂きたいと思います。

学校教育が一番気になります。小中高でしっかり体の性や性的マイノリティについての対応を学ばせてほしい。

どういう活動をしているのか、具体的に広報などで知らせてほしい。

パートナーから暴力はふるわれてないけど、いつもモラハラを感じてる。そういう質問をしてほしかった。

男女平等参画について、もっと広報で知らせてほしい。ケーブルテレビでの放映。少しずれてしまうかもしれませんが、惣菜店(塩分等意識したもの)を展開する後押しを市がやっても良いのかと思ったりします。働いていると日々の食事の用意が本当に大変で、健康を意識した店が夜もあつたりすると本当にありがたいのと男女がどうこう言う前にお店があることで男性が作らずとも買いに行ける(ひとり暮らしの老男性も)女性もカジノ負担が全体的に少し減るかも

幼少期からの継続的な教育が必要。

個人の能力が見直される社会になって欲しい。

いつも思っていることだが、全てに男女平等という考えは当てはまらない。それぞれの体の作りも役割も元々違う。お互いが得意で出来る事を尊重しあえば声高に叫ぶことはない。

<p>男女が平等に、育児・仕事ができる環境を整えてほしい。</p>
<p>男女平等参画についてよく知らない部分も多くあるが、こういう機会を知るきっかけにもなると思うので、良いと思った。</p>
<p>子供でもわかりやすく どんなことをして どんなたいおうして どんな人がいて どうしてくれるのか そもそも社会が平等じゃない</p>
<p>男女平等、ずい分長い間言われてきているが、なかなか人々の意識は変わらないようです。特に年令の高い男性は、口では平等と正しいことを言っているが、意識の中では「どうせ女は…」という人が多いように思います。若い人達への教育の成果を待ちたいと思います。</p>
<p>広報さくらをもう少し多くの店等で配布していただくと良いのではないかと思います。(新聞を取っていないのであまり読むことがありません)</p>
<p>100%の平等を目指してしまうと今の社会のままでは少子化がどんどん加速してしまう。なぜなら、女性登用などで社会的地位が上がることで男性なみの仕事を求められる方向に進んでいるから。日本社会全体として家庭の価値と仕事の価値が同等になるような施策をして欲しい。</p>
<p>男女平等は30代以上は、とくに40代以上はむずかしいと思います なので、どうしたらお互いにおぎないあえるか、又、男性のプライド(女性に意見を言われるとおもしろくない男性が多い)をおさえて耳をかたむけてくれるには、やはり学校など教育が大切ではないでしょうかと思います</p>
<p>男女平等参画←何を指している言葉なのか、具体的にわからない。</p>
<p>男性の女性に対する暴言、暴力、、セクハラ等、女性をかるく見ることはダメであるということをもっと世間に広めていってもらいたいし、女性を守る社会になってほしい。</p>
<p>子供が小さい頃から男女平等、性は自由である事を教育していれば成長していく過程、社会で偏見、格差がなくなっていくのではと思います。年配者は多様性の社会を見守ってほしいと思います。女性のリーダーを起用 etc アンケートにあるが男女それぞれの得意もあるため補い合える社会が築けたらよいと思います。</p>
<p>女性が自立し経済力が持てるよう、学校教育でも職業を持つよう教育していくことが重要と思う。</p>
<p>働いている人が社会を回していくものと思っているので、男女に関らず、働いている人の意見が通る社会になってほしいものです。女性でも働いて税金を納め社会を支えている人が増えれば色々かわっていくと思います。</p>
<p>誰もが住みやすい安心安全な町づくりのために、行政はじめ教育現場での意識改革やけいもう活動を推し進めると共に各個人が自覚しつつ、男女平等参画社会の実現に向けて進んで行きましょう。</p>
<p>昭和の時代から考えると、市民の意識は相当変わってきたと思います。行政などの働きかけももちろんあるとは思いますが、やはりマスコミによる報道が一番影響が大きいのではないのでしょうか。マスコミをいかに使うかだと思います。</p>
<p>特に中高年令以上の意識改革が必要と思う</p>

<p>何度か男女平等参画の相談窓口を紹介した事があるので広報活動で”1人で悩まない”を知らせてほしい</p>
<p>時代の変わり目は、何かと大変だと思いますが、より良い佐倉市の住環境の為に、一つ一つの積み重ねで、突破して下さることを、心から願っています。</p>
<p>男女平等参画に国や市がもっと積極的にとりくむ事ですが、何より家庭でも家族間での会話が必要ですね。</p>
<p>子供への教育は進んでいると思います。差別意識が強いのは大人の方だと思います。努力して差別しないようにしていくべきだと思います。</p>
<p>夫のせいで毎日辛く苦しい 助けてほしい 自分ではどうしようもない 夫が死ぬのを待つしかない。助けてほしい。</p>
<p>男のくせに、女のくせに、などという男女の表現が出ないようにになると、区別する意識も減るのではないでしょうか。 しかし、男として女としての役割はあるとお思います。(矛盾するようですが)</p>
<p>幼、保、小、中での性教育の充実化を図ってほしい</p>
<p>男女平等参画について、もっと広報で知らせてほしい。</p>
<p>運転できる親や子供と同居する人はいいが、もっとコミュニティーバスがあると年令、男女関わらず良いと思います。</p>
<p>誰もが自信をもって生き生きと生きることができる社会になってほしい。子どもたちが堂々と生きていけるような教育がうけられる仕組みを作ってほしい。自分のことも人のことも大切に思うことができる社会であってほしい。</p>
<p>男女平等の考え方について、80才代の方にもわかるように、わかりやすく広報で知らせ続けてほしい。世代的に全く分かっていない。家事や介護は嫁がするものと決めつけている。他の人の考え方が知れるようなコーナー(記事)を増やしていくのはどうか。</p>
<p>男女の身体の性差と、ジェンダーレスの風潮とごちゃ混ぜになってきてしまっている気がする。大人になると偏見をくつがえすのは難しいので、低学年の小学生から学ぶ機会があるといい。基本には「人の生命」を大切にすることから人権を尊重できる＝男女のちがい、マイノリティへの理解ができると思うので、人間として、他人、他の生命を尊重するんだという価値観をまず形成する教育をしてほしい。それが、いじめやDV、社会でのハラスメント対策ができるのではないのでしょうか？もしすでにそういう生命の尊厳の教育がされているならば、もっともっと拡大して、幼児から高校までずっと続けてほしいと思います。</p>
<p>佐倉のような保守的な地域では、かけ声だけでは格差はなくなりません。官公庁や公共施設の職員、特に幹部にクォーター制を導入し、格差のない職場を見せる事で最終的に格差の無い社会が当然であるという意識を育てることが急務ではないでしょうか。</p>

<p>今年からパートに職場復帰して思った事は、思った以上に夫は協力してくれない・できないという事。子供送り出し全で行ってから仕事に行く自分。家の事+仕事になっただけで、家の事は夫と半分にはできなかった。ただ自分のやるが増えた。もっと夫達でも家の事をやっている人はいるはず。市で夫の家事参加を、実際の声を発信してほしい。</p>
<p>新聞をとっていませんので、直接ポスティングを希望します。（男女平等参画関連広告等）</p>
<p>駅などのパンフレット置き場等に SDGs やサステナブルのパンフレットを貼ったり、雑誌などにして置いてほしい。TV も大事だけど。電車やバスの中にもポスターを貼ってほしい。</p>
<p>男女平等というより、他人への思いやりの気持ちをみんなが持てれば、女性が働く事も男性が育休をとる事も特別ではなくなると思います。小さい頃から教育・学習として道徳は習ってきましたが、「勉強」という形では身につかないのかもしれない。</p>
<p>困っている人に、タクシーの無料が欲しい。</p>
<p>私は 20 歳から現在も仕事をしています。子供もいます。運が良かっただけかもしれませんが、住んだ市で色々活動をして働き続ける為に苦労しました。お役に立てるのであれば色々お話ししたいです。是非お話聞いていただきたいです。すばらしいアンケートだと思います。</p>
<p>「平等」を勘違いしないように、性による違いを認識するような啓発が必要だと考えています。</p>
<p>男女平等参画は推進できれば素晴らしいと思うが、男女で向き不向きがあることは否めないで、無理強いするのは反対。また、様々な意見もあると思うので、一方的にならないよう注意する必要性を感じます。</p>
<p>地域を歩いたり、車に乗りながら、買い物をしながらでも自然と目に入り、個々の意識が変わるようなスローガンを作成したらいいかも。1年間などの期間を定めて強化年間にして、地域の人々の意識を変えていくなど。</p>
<p>イベント、セミナー等が開催されているのであれば、広く告知して欲しい。参加してみたい。</p>
<p>世の中は男であろうと女であろうと LGBT であろうと皆が公平に楽しく暮らせる世の中であってほしいと思います。残念だけど、女性の給与は男性より低いし、家の中のことは女性の仕事という社会的認識。女性も男性の収入ばかりアテにしないで社会に出て自立してほしい。女性の給与改善してほしい。</p>
<p>名は知っているがどういう活動をしていて、どんな時に利用できるのかわからない。知らない人が大多数と思う。「こんなときに、こういうふうに見える」と周知してくれないと。</p>
<p>三井ユリ子さんの講演をしてほしい。（北欧の男女平等への歴史や社会の様子。三井さんが受けたハラスメントについて）</p>
<p>いくつか回答に悩みました。不満はないけど、平等とは感じず……。政治家や議会での比率はまだまだ男性が多く話し合っても変化があるのかと思ってしまいます。平等になるのはまだまだ先の話なのかなと感じます。今は……</p>
<p>高齢になってからでは、意識を変えるのが難しい。子供や若い人達に教育をして、社会全体の考え方を変えていく事が重要である。今の高齢者の意識は変わらないと思う。</p>

役職など、男女平等にするために無理に人数合わせする必要はないと思います。能力のある人がやれば良いので。勉強の機会や就労の機会が奪われることのほうが問題。子育てや介護、家事、女性に任せきりの男性多いです。家庭での分担を見直し、気軽に支援サービスを取りやすい環境にしていけば、もっと女性も働きやすくなるし、自然と役職につく女性も増えると思います。女性が外に行けるよう、男性も当たり前にご飯を作ったり洗濯を干したりできるよう、学校でも同じカリキュラムで生きる知恵を教えてください。

自分の幼少期から比べると、かなり男女平等になってきています。男女の違いは性の特性として存在します。男性は子供を産めませんしね。特性をよく理解し、お互いのよさを生かし、協力していきたいです。また、人間という視点から見れば人は平等であり、男らしさ女らしさを押し付けるのはおかしいし、性的少数者についても個性として受け入れられることだと考えます。人として、尊重しあい、おもいやり、暮らしやすい社会に、更に近づくといいなと思います。

余計なことを沢山書き込みすぎてこの調査票を汚してしまいました。申し訳ありません。過去の屈辱的なこと、タイムオーバー気味で一生懸命、不器用さを貫いて十数年間体調不良の暗黒時代。震災の5・6年前、歩けるようになってから神経の束を切って人格も生き方も変えました。おかげで少し丈夫になりました。その後、震災の苦勞も耐えられるようになり幸せ太り。様々な人との出会いや皆様に感謝。

男女平等参画社会という言葉は聞いたことがありますが、内容がわからない事が多いので、詳しく知れる機会があればいいなと思いました。

何回か、レイクピアにお伺いしたことはあるが（別の用事で偶然通りかかっただけですが）何をやられているのか、分からなかった。パンフレットなど掲示するだけでは、何も伝わらない。

すべて平等がよいとは、かぎらない
それぞれの特性も考慮が必要。
子供は、母親よりになるので、子育ては男:女が4:6とか3:7でもよいと思う。その分、家事を男性も頑張ってもらいたい。

母は東京でずっと昔から男女平等参画に関わってきた。
それは、父が典型的な「男尊女卑」だったために、子どもには「男女は平等」だと理解させたかったからだと思う。
しかし、何十年たって、ほんの少し前進したに過ぎない。
母から自身の活動について、きちんと説明をされたこともない。自己満足のためだった。
海外生活が長いにも関わらず、日本人社会は変わらなかった。
結局は離婚したのは「自分の見る目がないから」と言われ、母の活動は何だったのか。また父の男尊女卑に対して何も結果を残すことができなかった。
子ども時代の「すりこみ」がいかに恐ろしいかと実感した。

情報の提供だけではだめなのではないですか。
一市町村の問題ではないので、国を巻き込む型で地方から提案して行ってほしい。

このようなアンケート調査をしてくださり有難うございます。
昔に比べれば、男女平等の格差はとでも収縮しているように感じます。
これも皆さんがこのような活動をしてくださるお陰だと思います。
男女平等にすることによって、男性側も様々なメリットが受けられて、皆が過ごしやすような地域にしていけたら素晴らしいと思います。

20代30代現在育児世代男性は学校の教育で家事育児の分担に抵抗はない。親世代以上がまだ男性が家事育児をすることにに対して恥ずかしい事、女がやる事と根強くある。職場でも仕事を途中で切り上げる事ができずに共働きでも妻が切り上げる。結果、仕事も中途半端になる。男性の家事育児の協力しない人こそ、恥ずかしい事だと現役世代だけでなく、親世代以上にこそアピールしてほしい。

男女平等により男性の収入が減ってしまった為、女性が育児に集中出来ず、共働きになり、託児所が利用できない場合は祖父母の助けが必要になる、その場合親からの愛情が十分とはいえないのでこの世代がこれからどんな大人になるのか全くわからず不安がある。

・男性育児参加を推進することは大切だが、反面で、一緒に働く子育て中の者(子育て制度を利用できず日々育児、家事と仕事で一杯一杯の中で乗り切っている女性)がその仕事のしわ寄せを受けることがある。職場の配置や仕事配分などのバランスを職場でしっかりと検討すべきだと思います。

(育児参加する男性の家庭は円満である反面、影響を受ける者(女性)の生活は大変です。)

・時短勤務制度を利用できる子どもの年齢を引き上げれば(例・小学校卒業まで)、家庭と仕事のバランスが取りやすいと感じます。

たくさんの事で男女平等と言われる社会になりましたが、肉体的や力の差で男性と女性で差がある事は仕方ないことだとも思います。

例えば、下着売場の方が男性だったら嫌です。レスキュー隊が女性だったら、警備の方が女性だったら、正直不安です、全てが男女平等というのは無理だと思います。何に対しても、平等と言う女性が沢山いるとおもいますが、正直都合の良いところだけ平等と言われても同じ女性として、どうなのでしょうと思います。女性にしか出来ないこと男性にしか出来ないこと、まだまだ沢山あると思います。

専業主婦時代無給のため、同居の家族から「穀潰し」「ただ飯食い」「怠け者」「役立たず」等の言葉の暴力を浴びせられても、夫は無関心・無理解で、男尊女卑の考えにどっぷりつかっている相手の意識の古さが情けない。昔結婚後、狭小住宅に相手の両親と同居していた頃、襖二枚隔てた寝室。乳呑児がむずっただけで、いきなり襖を開け、大声で部屋に入ってきてかき回す。安心して睡眠も取れず、生きた心地がしなかった。夫は親に何も云わず、マイペースで眠っている。田舎の日本の社会ではよくあったことだろうが、嫁は単なる労働者で一人前の人間として認められず。病気をしても病人扱いされず。全身から力が抜け這うことも歩くことも難しくなっても家事を強要され休めなかった。世間には怠け者と云い振られ「嫁失格」の烙印を押された。また何度か1対多数で魔女裁判が行われ、いつも吊るし上げられるだけの恐怖の時間を重ねてきた。←震災前まで同居。津波で放り出された実家の母と流転。今日に至る。

■どちらとはいえない

(少し話が違うかもしれないが)パートナーシップ制度の導入を前向きに考えて欲しい。

周囲にもニュースなどにも昔ながらのうんざりするような考え方の人が多いと感じます。個々人の問題でもありますので、行政がどこまでできるかわかりませんが、どうぞ今後も取り組みを頑張ってください。

高等学校教諭ですが、男女で区別のないように気をつけ指導しています。しかし社会に出ると明らかに男性優位な社会だと思います。女性だから舐められるのもいやです。LGBTについては、言いづらいのが現状です。学生であっても大人でも差別を恐れるからです。なくすためには市町村でのパートナー制度を設けることでLGBT認められる気分になりますし、ひとりひとりが当たり前のことだと意識を持てるようになれば世の中は変わると思います。自分自身もトランスジェンダーで教員ということもあるので隠して生きてます。いつか認められる日が来るのを待ってます！

■無回答

「男女平等は重要」だと考える日本男性はどれくらいいるだろうか？日本の男性は、男女の賃金格差にまだ気づいていないのでは？都合のいいときだけ男女平等という人が嫌いです。「誰もが性別の違いにとらわれず、自分らしく生きることができる社会にしよう」というのが、ジェンダーフリーの考え方ですが、表面だけつくりながらも根本的に変わらなければ理想だけになるのではないのでしょうか。

IV 調查票

男女平等参画社会に関する市民意識調査 調査票

【重複識別番号について】

インターネットでご回答される場合は、以下の重複識別番号をご入力ください。紙でご回答される場合は、問1にお進みください。

重複識別番号：

※この番号は紙回答とインターネット回答の重複を確認するためだけに使用する番号です。本番号とお名前や住所などの個人情報とは一切関連づけていません。

【男女平等意識について】

問1 あなたは「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどのように思いますか。(〇は1つ)

1. 同感する 2. どちらともいえない 3. 同感しない 4. わからない

問2 あなたは、次の(ア)～(ケ)について、男女の地位は平等になっていると思いますか。それぞれの項目ごとに、あてはまるものを選んでください。

(〇は項目ごとに1つずつ)

	1	2	3	4	5	6	
	優遇されている	男性の方が非常に優遇されている	平等である	どちらかといえは女性が優遇されている	優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
回答例	1	2	③	4	5	6	
(ア) 家庭生活の中で	1	2	3	4	5	6	
(イ) 地域社会の中で	1	2	3	4	5	6	
(ウ) 学校教育の場で	1	2	3	4	5	6	
(エ) 職場の中で	1	2	3	4	5	6	
(オ) 法律や制度の中で	1	2	3	4	5	6	
(カ) 政治の場で	1	2	3	4	5	6	
(キ) 社会通念・習慣・しきたりなどで	1	2	3	4	5	6	
(ク) 人生を決める選択枝や自由さ	1	2	3	4	5	6	
(ケ) 社会全体でみた場合	1	2	3	4	5	6	

【家庭生活について】

問3 あなたは現在、結婚されていますか。次の中からあてはまるものを選んでください。
(○は1つ)

- | |
|--------------------|
| 1. 結婚している（事実婚を含む） |
| 2. 結婚していたが、離別・死別した |
| 3. 結婚していない |

**問3で1を選んだ方は、以下の問3-1、問4もお答えください。
問3で2、3を選んだ方は、問5にお進みください。**

問3-1 ご自身及びパートナーの就労状況はどれですか。次の中からあてはまるものを選んでください。(○は1つ)

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1. 共働きしている | 3. パートナーだけ働いている |
| 2. 自分だけ働いている | 4. どちらも働いていない |

問4 あなたの家庭（事実婚で同居している場合を含む）では、次の（ア）～（サ）の事柄を主に誰が担っていますか。それぞれの項目ごとに、あてはまるものを選んでください。

(○は項目ごとに1つずつ)

	1 夫	2 妻	3 どちらも 同じくらい	4 その他の家族 (子どもや親など)	5 その他(※)	6 該当なし
回 答 例	1	②	3	4	5	6
(ア) 食事の支度	1	2	3	4	5	
(イ) 食事の後片付け・食器洗い	1	2	3	4	5	
(ウ) 日用品・食料品などの買い物	1	2	3	4	5	
(エ) 洗 濯	1	2	3	4	5	
(オ) 掃 除	1	2	3	4	5	
(カ) 資産・財産の管理(土地・家屋の購入など)	1	2	3	4	5	
(キ) 家計費管理	1	2	3	4	5	
(ク) 自治会・町内会の出席	1	2	3	4	5	6
(ケ) 学校行事などへの参加	1	2	3	4	5	6
(コ) 子育て	1	2	3	4	5	6
(サ) 高齢者・病人などの介護	1	2	3	4	5	6

※「その他」には、ボランティア、ホームヘルパー、各種家事代行も含まれます。

ここからは再び、すべての方がお答えください。

問5 男性が家事や育児、介護をすることについて、どのようなイメージをお持ちですか。

(〇はいくつでも)

1. 男性も家事や育児などをするのは当然だ
2. 男性自身も充実感が得られる
3. 子どもにいい影響を与える
4. 仕事と両立することは、現実として難しい
5. 家事・育児・介護は女性の方が向いている
6. 男性は、家事・育児・介護を行うべきでない
7. 特にない
8. その他 ()

問6 男性が家事や育児、介護などの家庭内の役割を担うには、どうしたらよいと思いますか。

(〇はいくつでも)

1. 行政が情報誌や講座などで、男性の家事・育児・介護への参加を促す啓発活動・学習活動を実施する
2. 家庭で男性に家事・育児・介護への参加を強く要望する
3. 男性も家事・育児・介護の仕方を身につける
4. 女性が経済的に自立する
5. 男性の労働時間を短くする
6. 働き方（就業の時間や場所）を個人の裁量で決められるようにする
7. わからない
8. その他 ()

【子育て・教育について】

問7 子どもを育てる場合、どのように育てていきたいと考えていますか。(〇は1つ)

1. 性別によって育て方を変えた方がよい
2. 性別にかかわらず、同じように区別しないで育てた方がよい
3. どちらとも言えない(わからない)

問8 家庭・学校や地域社会において、これからどんな教育や習慣の見直しが重要であると思いますか。次の(ア)～(ク)の項目ごとに1～4の中からあてはまるものを選んでください。

(〇は項目ごとに1つずつ)

	1 で非 ある ると 重要 う	2 思重 う要 で ある と	3 ああ るま とり 思重 わ要 な い	4 と重 思要 う で は な い
回 答 例	①	2	3	4
(ア) 女らしい、あるいは男らしい遊びや習慣を押し付けないようにする	1	2	3	4
(イ) 男女の区別なく、同じように家事の分担をさせる	1	2	3	4
(ウ) 出席簿や座席など、男女で分ける習慣をなくす	1	2	3	4
(エ) 男女の区別なく、能力や個性を生かせるように指導する	1	2	3	4
(オ) 男女の差別的な社会の仕組みや歴史について認識を深める	1	2	3	4
(カ) 校長・教頭などに女性を積極的に登用する	1	2	3	4
(キ) 性についての正しい十分な教育を行う	1	2	3	4
(ク) 多様な結婚観・家庭観があることを教える	1	2	3	4

【職業（就業）について】

問9 あなたのご職業は何ですか。次の中からあてはまるものを選んでください。（○は1つ）

1. 自由業・自営業・家族従業員	4. 学生
2. 正規社員・職員	5. 家事専業・無職
3. 臨時・派遣・パート・アルバイト・内職など	6. その他 ()

問10～13は、問9で1、2、3を選んだ方のみお答えください。
問9で4、5、6を選んだ方は、8ページの間14にお進みください。

問10 あなたの職場では、性別により仕事の内容や待遇面で差別がありますか。（○は1つ）

1. 差別がある	2. 差別はない
----------	----------

↓
(問10で「1. 差別がある」とお答えの方にお伺いします。)

問10-1 具体的にどのようなことがありますか。（○はいくつでも）

1. 賃金に男女差がある
2. 昇給、昇格に男女差がある
3. 性別によって能力を適正に評価しない
4. 性別によって配置場所が限られている
5. 性別によって仕事内容が決められてしまう
6. 女性を幹部に登用しない
7. 結婚や出産で退職しなければならない雰囲気がある
8. 育児・介護休業（休暇）の制度を利用しにくい雰囲気がある
9. 中高年以上の女性に退職を勧める雰囲気がある
10. 女性が教育や研修等を受ける機会がない
11. その他 ()

問11 あなたが、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」のうち優先したいものは何ですか。次の1～8の中から、あなたの理想と現状を1つずつ選んでください。

(1) 理想 (○は1つ)

1. 「仕事」を優先したい
2. 「家庭生活」を優先したい
3. 「地域・個人の生活」を優先したい
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
8. わからない

(2) 現状 (○は1つ)

1. 「仕事」を優先している
2. 「家庭生活」を優先している
3. 「地域・個人の生活」を優先している
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
8. わからない

※家庭生活：家族とともに過ごすこと。家事（食事の支度・片付け、掃除、洗濯など）、育児、余暇、介護、看護など。

※地域・個人の生活：学習・研究、趣味、娯楽、スポーツ、ボランティア活動、社会活動、交際・つきあいなど。

問12 育児休業や介護休業を取得したことがありますか。(○は項目ごとに1つずつ)

- | | |
|------|--------------------------|
| 育児休業 | 1. 利用したことがある（最長取得期間1年以上） |
| | 2. 利用したことがある（最長取得期間1年未満） |
| | 3. 利用したことがない |
| 介護休業 | 1. 利用したことがある（最長取得期間1年以上） |
| | 2. 利用したことがある（最長取得期間1年未満） |
| | 3. 利用したことがない |

※最長取得期間：育児休業・介護休業を複数回取得した場合に、一番長い取得期間のこと。

(問12で「3. 利用したことがない」とお答えの方にお伺いします。)

問12-1 育児休業、介護休業を取得しなかった理由は何ですか。(○は項目ごとに1つずつ)

- | | |
|------|---------------------------|
| 育児休業 | 1. 職場に制度がなかった |
| | 2. 在職中に育児をしたことがない |
| | 3. 取得しなくても育児に対応できた |
| | 4. 取得したかったが、事情により取得できなかった |
| 介護休業 | 1. 職場に制度がなかった |
| | 2. 在職中に介護をしたことがない |
| | 3. 取得しなくても介護に対応できた |
| | 4. 取得したかったが、事情により取得できなかった |

問13 育児休業、介護休業の今後の利用について、あなたはどのようにお考えですか。

(○は項目ごとに1つずつ)

- | | |
|------|--------------------|
| 育児休業 | 1. 利用したいと思う |
| | 2. 利用したいと思うが、不安がある |
| | 3. 利用したいと思わない |
| | 4. 育児休業を利用する予定がない |
| | 5. 職場に制度がない |
| | 6. わからない |
| 介護休業 | 1. 利用したいと思う |
| | 2. 利用したいと思うが、不安がある |
| | 3. 利用したいと思わない |
| | 4. 介護休業を利用する予定がない |
| | 5. 職場に制度がない |
| | 6. わからない |

ここからは再び、すべての方がお答えください。

問14 女性の仕事と、結婚・出産等の関係について、あなたはどのようにお考えですか。

(○は1つ)

1. 結婚や出産にかかわらず、仕事をもち続けた方がよい
2. 結婚や出産などで一時退職し、子どもが大きくなったら再び仕事をもつ方がよい
3. 子どもができるまで働く方がよい
4. 結婚するまで働く方がよい
5. 結婚や出産をしても仕事を続けた方がよいと思うが、現実的には難しい
6. 生涯仕事をもたない方がよい
7. 結婚や出産後は、パートタイム（短時間労働）に切り替えるなど負担を軽くする方がよい
8. その他（)
9. わからない

問15 男女が共に仕事や家庭、地域活動、趣味・娯楽などを両立していくためには、どのような取り組みが重要だと思いますか。(○はいくつでも)

1. 育児・介護休業や休暇の取得や、職場復帰がしやすい職場環境を整備する
2. 育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実する
3. 地域や職場内の保育園や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実する
4. 在宅勤務、フレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入する
5. 残業を減らすなど、年間労働時間を短縮する
6. 管理職の意識や男性中心の職場運営を見直す
7. 仕事と家庭を両立させていく事に対し、周囲の理解や協力がある
8. 再就職に関する相談や支援体制を充実させる
9. パートタイマーなど非正規社員・職員の労働条件を改善する
10. その他（)
11. わからない

【地域活動について】

問16 あなたは、この1年間、どのような地域活動に参加していましたか。(〇はいくつでも)

- | | |
|----------------------|---------------|
| 1. スポーツなど健康増進のための活動 | 6. 国際交流関係の活動 |
| 2. 趣味や文化・教養を高めるための活動 | 7. 自然保護関係の活動 |
| 3. 町内会や自治会の活動 | 8. 防犯・防災関係の活動 |
| 4. PTAや子ども会の活動 | 9. その他 () |
| 5. 高齢者クラブの活動 | 10. 特になし |

(問16で「10. 特になし」とお答えの方にお伺いします。)

問16-1 こうした活動に参加しない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1. 仕事が忙しいから | 6. 人間関係がわずらわしいから |
| 2. 家事や育児・介護が忙しいから | 7. 参加したい活動がないから |
| 3. 家族の協力や理解が得られないから | 8. こうした活動には興味がないから |
| 4. ひとりでは参加しにくいから | 9. こうした活動に関する情報がないから |
| 5. 活動や交流の場所がないから | 10. その他 () |

【人権について】

問17 あなたは、「人権が尊重されていない」と感じるのは、どのようなことについてでしょうか。(〇はいくつでも)

- | |
|---|
| 1. 職場におけるセクシャル・ハラスメント (性的いやがらせ) |
| 2. パートナーや交際相手からの暴力 |
| 3. パートナーや交際相手からの一方的なセックスの強要 |
| 4. つきまとい (ストーカー) 行為等 |
| 5. レイプ (強姦) などの性暴力や痴漢などのわいせつ行為 |
| 6. 売春・買春・援助交際・JKビジネス |
| 7. 女性の体の一部などを内容と無関係に使用した広告 |
| 8. アダルトビデオ・インターネット等メディアにおけるわいせつ情報や性の商品化 |
| 9. その他 () |
| 10. 特に感じない |
| 11. わからない |

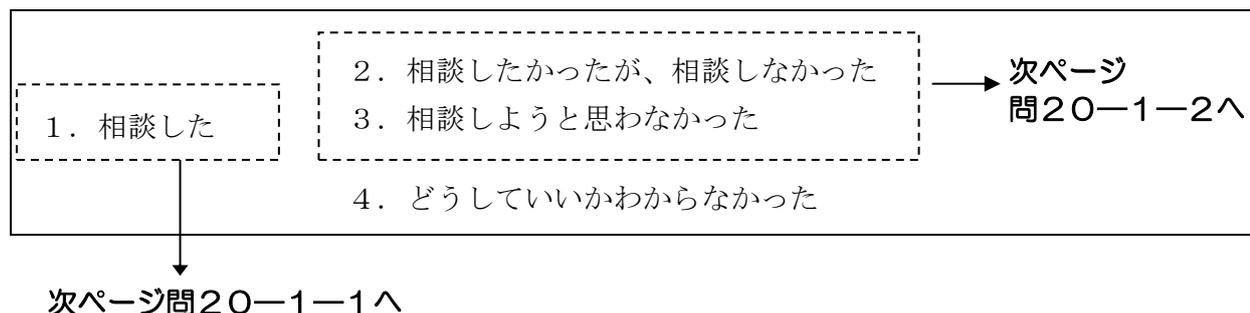
問20 あなたは、これまでに、あなたのパートナー（事実婚や別居中、離別・死別を含む）または恋人などから、次のようなことをされたことがありますか。それぞれの項目ごとに1～3の中からあてはまるものを選んでください。

（○は項目ごとに1つずつ）

	1 何度もあった	2 1、2度あった	3 まったくない
回答例	1	②	3
(ア) 大声でどなられる	1	2	3
(イ) 「だれのおかげで生活できるんだ」とか「かいしようなし」などと言われる	1	2	3
(ウ) 交友関係や行き先、電話やメールなどを必要以上に、細かく監視されたり、連絡を制限される	1	2	3
(エ) 家計に必要な生活費を渡してくれない	1	2	3
(オ) 何を言っても長時間、無視され続ける	1	2	3
(カ) あなたは見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる	1	2	3
(キ) あなたがいやがっているのに、性的な行為を強要される	1	2	3
(ク) なぐるふりや、刃物でおどされる	1	2	3
(ケ) 平手でうつ、なぐる、足でけるなどの暴行を受ける	1	2	3
(コ) 子どもの前で暴力をふるわれる	1	2	3
(サ) その他（ ）	1	2	3

（問20で「1. 何度もあった」か「2. 1、2度あった」に1つでも○があった方にお伺いします。）

問20-1 そのことを、誰かに相談しましたか。（○は1つ）



(問20-1で「1. 相談した」とお答えの方にお伺いします。)

問20-1-1 実際に、誰(どこ)に相談しましたか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. 親族 | 5. 家庭裁判所、弁護士など |
| 2. 役所の相談窓口・電話相談など | 6. 民生委員、人権擁護委員等 |
| 3. 友人、知人 | 7. 警察署 |
| 4. 医師、カウンセラー | 8. その他 () |

(問20-1で「2. 相談しなかったが～」か「3. 相談しようと～」とお答えの方にお伺いします。)

問20-1-2 「誰(どこ)にも相談しなかった」のは、なぜですか。(〇はいくつでも)

- | |
|---------------------------------|
| 1. 誰(どこ)に相談してよいか、わからなかった |
| 2. 相談する人がいなかった |
| 3. 恥ずかしくて誰にもいえなかった |
| 4. 相談しても無駄だと思った |
| 5. 相談したことがわかると、自分や子どもに危害が及ぶと思った |
| 6. 自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思った |
| 7. 他人に迷惑をかけたくなかった |
| 8. 自分にも落ち度があると思った |
| 9. 相談するほどのことではないと思った |
| 10. その他 () |

問21 あなたは、ドメスティック・バイオレンス(DV)の防止および被害者支援のために、どのような対策が重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

- | |
|--|
| 1. 家庭内や恋人間であっても暴力は犯罪であるという意識の啓発 |
| 2. いざというときに駆け込める緊急避難場所(シェルター)の整備 |
| 3. 緊急時の相談体制の充実 |
| 4. 住居や就労の斡旋 ^{あつせん} 、経済的援助など、自立して生活するための支援策の充実 |
| 5. カウンセリングや日常的な相談など、精神的に自立するための支援策の充実 |
| 6. 関係機関の紹介や暴力への対応方法など、DVに関するいろいろな知識の提供 |
| 7. 離婚訴訟への支援や養育費の請求など、法的なサポートの充実 |
| 8. カウンセリングなど、加害者の更生に関する対応の充実 |
| 9. 家庭や学校において、子どもに対し暴力がいけない事だと教える |
| 10. 身近でパートナーによる暴力に気付いたら、周囲の人が通報することが大切である、という意識づくり |
| 11. その他 () |
| 12. わからない |

※ドメスティック・バイオレンス(DV):パートナー(事実上婚姻関係と同様の事情にある者を含む)またはパートナーであった者から振るわれる暴力。

【男女平等参画施策について】

問22 PTA会長や自治会長、議会や審議会・委員会等の政治分野や方針を決定する過程において、女性の参画が少ないのはなぜだと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 男性が担うのが社会慣行だから
2. 女性は家事・育児が忙しいから
3. 家族の支援・協力が得られないから
4. 指導力のある女性が少ないから
5. 女性側の積極性が足りないから
6. 女性がリーダーになることに抵抗があるから
7. その他 ()

問23 男女平等参画社会の実現のための推進事業や、団体・事業者の方々を支援するための拠点施設として、男女平等参画推進センター(レイクピアウスイ3階)を設置しています。あなたは、男女平等参画推進センターの施設や講座などを利用していますか。(〇は1つ)

1. よく利用している
2. 利用したことがある
3. 知っているが、利用したことはない
4. 知らない
5. 知らないが、今後利用してみたい
6. その他 ()

◎男女平等参画推進センター(ミウズ)とは…

男女が社会の対等な構成員として、あらゆる分野における活動に共に参画する社会を形成するための活動拠点です。男女平等参画推進のための啓発、講座・講演会等の開催や、図書の出借等の情報提供、女性のための相談の実施、学習室の出借などを行っています。

問24 男女平等参画社会づくりを進めるために、佐倉市にどのような施策を期待しますか。

(〇はいくつでも)

1. 市の審議会や委員会など、市の政策方針決定の場へ女性登用の推進
2. 地域・各種団体などの女性リーダーの養成
3. 幼児教育や学校教育において、男女平等意識の育成
4. 男女平等に関する法律や制度について情報提供の充実
5. ボランティア活動・NPO活動の充実
6. 仕事と家庭、地域活動、趣味・娯楽などの両立支援
7. 女性の再就職・起業など自立支援のための教育・学習機会の充実
8. 男性の家事・育児・介護などへの参加促進にむけた情報提供や学習機会の充実
9. 子育てをしやすい環境整備
10. 高齢者・障害者の介護に関する情報提供
11. 職場における、男女の均等な取扱いについての周知徹底
12. 自営業や家族従業者（農業を含む）へのワーク・ライフ・バランスの啓発
13. 市職員の男女平等意識の推進
14. 性教育・性に関する学習機会の充実
15. 健康診断・生活習慣病予防など健康管理対策の充実
16. パートナーに対する暴力の防止対策の充実
17. 男女平等参画の視点からの防災対策
18. 女性からの相談体制の強化
19. 男性からの相談体制の整備
20. 男女平等参画推進センターの充実
21. その他 ()
22. 特になし

最後に、あなた自身のことについてお答えください。

F1 あなたの自認する性別に〇をつけてください。

1. 男性
2. 女性
3. どちらともはいえない

F2 あなたの年齢に〇をつけてください。(令和4年8月31日現在でお答えください。)

1. 10歳代
2. 20歳代
3. 30歳代
4. 40歳代
5. 50歳代
6. 60歳代

F3 あなたのお住まいの地区に〇をつけてください。

1. 佐倉地区
 2. 志津地区
 3. 臼井地区
 4. 根郷地区
 5. 和田地区
 6. 弥富地区
 7. 千代田地区
(染井野含む)
- (ユーカリが丘含む)

F4 現在、いっしょにお住いの方はどなたですか。続柄は、あなたを中心にお考えください。
(〇はいくつでも)

1. ひとり暮らし	6. 祖父母
2. パートナー (事実婚含む)	7. 孫
3. 子ども	8. その他の親族
4. 親 (パートナーの親含む)	9. その他 ()
5. 兄弟姉妹	

F5 男女平等参画社会についてのご意見・ご要望などございましたら、ご自由にお書きください。

(例) 男女平等参画について、もっと広報で知らせてほしい。

以上で、質問は終わりです。

同封された封筒にて、10月3日(月)までに、ポストにご投函願います。
ご協力いただきまして、まことにありがとうございました。